

International Exchange Letter



国際交流レター

2005 vol.27

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY
熊本学園大学

International Exchange Letter
国際交流レター

2005 Vol.27

C o n t e n t s

巻頭言 1

学長 坂本 正

TOPICS 2

北京第二外国語学院との協定締結
北京工商銀行との学術交流
大田大学校との姉妹提携20周年
モンタナ州との交流功労賞
姉妹校との国際シンポジウム
Up with People 来学
第15回外国人留学生弁論大会

協定校紹介&担当者の声 6

北京第二外国語学院
国際交流与合作処 処長 李均建氏
Mr. Li Junjian, Director,
International Exchange and Cooperation Office
Beijing International Studies University

大学院留学生体験記 7

経営学研究科 2年 El Farissi Yasser
経営学研究科 1年 Ngo Thi Bich Thuy

受入れ交換留学生体験記 9

Christopher Petroni
Montana State University (アメリカ モンタナ州ボーズマン)
Chris Mayeda
Carleton University (カナダ オンタリオ州オタワ)
Jeff Hsu
Unitec New Zealand (ニュージーランド オークランド)
李壽連
大田大学校 (韓国 大田広域市)
付細月
深圳大学 (中国 広東省深圳市)
Le Minh Hieu
Vietnam National University, Hanoi (ベトナム ハノイ)

派遣交換留学生体験記 15

田中 千春
Carroll College (アメリカ モンタナ州ヘレナ)
西岡 朋美
University of the Incarnate Word (アメリカ テキサス州サンアントニオ)
村上真優美
Carleton University (カナダ オンタリオ州オタワ)
白石恵理佳
大田大学校 (韓国 大田広域市)
尾田 美紀
中国人民大学 (中国 北京市)
権藤真由美
Vietnam National University, Hanoi (ベトナム ハノイ)

短期派遣留学生体験記 21

奥山 泰介
Liverpool John Moores University (イギリス リバプール)
清田 絢子
Unitec New Zealand (ニュージーランド オークランド)

研修参加体験記 22

山本 志織
(短期語学ホームステイプログラム オーストラリアコース)
安永 愛子 (学生研修団 ベトナムコース)

教員交流 23

孫俊英 深圳大学副教授 (中国 広東省深圳市)
李沛然 深圳大学副教授 (中国 広東省深圳市)
西園寺明治 商学部教授 (韓国 大田広域市 大田大学校へ派遣)

国際交流写真館 26

DATA 28

2005年海外往来
2005年度出身国(地域)別留学生数
2005年本学留学生への主な案内
交換教員紹介、2005年研修団往来

「熊本学園大学ルネッサンス」で 更なる国際交流の推進



熊本学園大学 学長
坂本 正

2005年11月9日、中国・北京第二外国語学院との大学間交流協定締結調印式を執り行い、9カ国21大学目の姉妹校となった。「学生が主役の大学」を支える日本有数の国際交流制度は更に充実した。

本学は、1942年の東洋語学専門学校開設以来、脈脈と引き継がれた「世界を視野に入れたグローバルな人材を育成する教育」の伝統を推進しているが、1982年アメリカ・モンタナ州立大学等諸大学との姉妹校提携以来、現在、欧米、アジア、オセアニアなど9カ国21大学との本格的な国際交流活動を展開し、この24年間で多面的な国際ネットワークを築いてきた。その成果の積み上げを基礎として、新しい伝統と価値の創造を築く、「熊本学園大学ルネッサンス」を掲げ、グローバル時代に対応できる、国際規格の職業人の育成に向けてさまざまな取り組みを行っている。

グローバル化の進展の中で、大学院修士課程が大学教育の標準装備であり、大学院博士後期課程が国際標準の時代となっている。大学院をベースにした国際交流がこれからの新しい潮流になる時代に本学は、全学部博士後期課程を設置し、西日本有数の国際標準の大学

として国際化に対応した大学への進化を遂げている。また、国際レベルでの「高度学術研究支援センター」を設置し、国際的プロジェクト等のサポート体制を整えている。日本・中国金融研究プロジェクトは日本・中国の共通の金融問題を共同で研究しており、研究交流も盛んである。

学部教育九州ナンバーワンのシステムのもとで、文系総合大学として多数のネイティブの教員をもち、国際化の雰囲気満ちあふれる本学のキャンパスはいまや小さな地球である。

このような高度な教育・研究環境のもとで、学生を豊かな国際感覚を持つ国際規格の職業人として育成するには、学生が「私は…」の一人称で自分の考えを述べ、指導にあたる教員が海外に向けて情報を「発信」する中での相互のパートナーシップの形成が鍵となる。その一環として、海外交流大学との連携と学術交流により、国際的な教育の充実をさらに推進したい。

多くの留学経験者が学内でその発信の輪を広げていることを誇りに思い、今後も国際交流委員会が企画・実施する留学・研修プログラムが充実・発展することを祈念し、国際交流レターの巻頭言としたい。

北京第二外国語学院と大学間交流協定締結

北京第二外国語学院との協定調印式が、2005年11月9日本学で北京第二外国語学院の倪志恒副院長、王晓萃国際交流課員を迎えて行われた。

北京第二外国語学院は、本学の外国語学部創設時から教員を迎えるなどの友好関係があり、東アジア学科の海外研修受入校として10年来の関わりをもっている大学で、日本語学科など語学教育のほか、観光学、経済学、国際貿易などの専攻分野を備える学生数約8千人の総合大学。本学は、1987年に中国・深圳大学との姉妹大学提携をし、その後北京人民大学、北京外国語大学、北京語言大学に学生派遣を行っており、今回で中国において5番目の大学間交流協定校となる。

調印式では理事長、学長、常務理事、学部長らが列席するなかで、協定書署名の後、記念品の交換が行われ、坂本学長は「北京第二外国語学院は、北京における本学の学生交流の拠点校として位置付けている。将来はこれまでの学生交流に加え、さらに学術交流へと広がる交流を行っていききたい」と挨拶し、倪志恒副院長は「熊本学園大学とは交流校として効果的な成果がでるものと期待している。日本と中国をつなぐ学生を育てていきたい」と挨拶をした。



中国工商銀行との学術交流

本学は中国最大の国有商業銀行である、中国工商銀行の都市金融研究所と学術交流協定を2004年5月20日に締結し、その後既に2回、当該研究所との間で国際シンポジウムが開催された。2005年10月25日、第3回国際シンポジウムを今回初めて本学で開催。今回は「銀行業におけるコーポレート・ガバナンス」をテーマとして、樊志剛中国工商銀行都市金融研究所副所長、本学坂本学長、貞松教授の3名が発表。シンポジウムは、地元銀行の役職者、研究プロジェクトメンバー、大学院生など約40名が参加し、日中両国の実態と最新動向、銀行業におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）を比較しながら、その主要課題及び課題解決の方策にせまる報告とディスカッションがなされた。

次回に向けては更に共同研究を進め、2006年4月中旬に中国工商銀行都市金融研究所のメンバーが本学を訪問して第4回国際シンポジウムが開催される予定。



本学と韓国・大田大学校 姉妹提携20年を祝う

韓国・大田大学校との姉妹校提携締結20年を祝う行事が、林用哲総長をはじめ一行8名を迎えて2005年12月2日に本学で行われた。

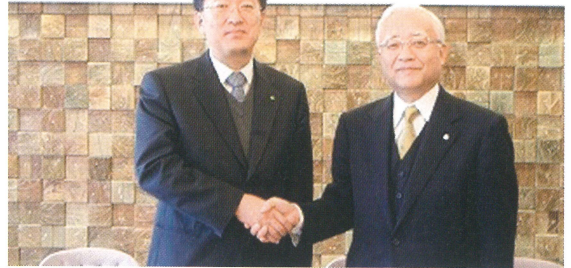
大田大学校は、1980年創立の韓国の大田広域市東部に位置する総合大学で、本学とは1985年（昭和60年）6月の姉妹校提携締結調印以来、学生や教員の交流を活発に続けてきている。

式典では、20年のあゆみが紹介されたあと、調印当時学長だった北古賀勝幸理事長が「当時の沢田一精県知事に仲介の労をとっていただいたことを今懐かしく思い起こす。20年前の調印式で私は、

“近くて遠い国”が“近くて近い国”になるために役に立ちたい、と挨拶したが、今では両国の友好関係は確実に深まりつつあり、両大学の友好交流もまた同じであり、さらなる交流を期待している」と挨拶。林総長が「両大学のいっそうの交流が成し遂げられることを願っている」と述べ、坂本正学長と記念品を交換し、固い握手を交わした。

この後、坂本学長と林総長が「少子化の中での大学の未来」と題して対談。「全入時代が間近に迫っているのが今日の日本の状況だが、大学の価値は学生の満足度が決めるということが本学の基本的な考えである。そのためには、学生のニーズに応えるきめ細かい教育が必要であり、それが保護者の満足度、高校の先生の満足度に繋がり、大学の評価に繋がる」（坂本学長）、「学生が主役と言われるのに私も賛成する。大田大学校は地域住民が誇りに思える大学になるために、全国私大でトップ10に入ることを目標に邁進し、教育環境の改善など7つの課題を掲げて最善を尽くしている」（林総長）などと語った。

熊本学園大学・韓国大田大学校
姉妹大学提携締結20周年記念式典



モンタナ州・熊本県両知事から交流功労で表彰される

本学は1982年（昭和57年）7月にアメリカ・モンタナ州のモンタナ州立大学等と姉妹校提携を結び、以来22年間、積極的に学生・教員の交流などを進めてきていたが、熊本とモンタナ両州県の交流に貢献したとして2004年4月21日、両知事から表彰され、感謝の盾が贈られた。

4月20日からジュディー・マーツ州知事が来熊、熊本市内のホテルであった歓迎レセプションの席上で表彰されたもので、マーツ知事と潮谷義子知事から坂本学長が表彰の盾を受け取った。5団体が表彰され、教育機関は本学のみだった。



姉妹校との第3回国際シンポジウム開催

本学と韓国・大田大学校との姉妹校提携締結15周年を記念して始まった大田大学校との国際シンポジウムは、2004年11月第3回を数えた。今回は、同じく本学の姉妹校である、中国の深圳大学が加わり、3大学9名の研究者で「三つの視点からの経済的チャンス：地方、国、文化」をテーマに発表が行われた。



Up with People ディスカッション開催される

アメリカの国際教育団体 Up with People（世界21カ国の若者が半年間世界各地を訪問しながら、実体験で地域的・国際的な問題について学ぶプログラム）が、熊本の学生とのディスカッションのため本学を2005年4月23日に訪問し、学生と大いに語り合った。

本学からは学部生・院生約30名、UWPの約40名が参加し、4つの分科会（環境・社会・多文化共生社会・食糧問題）に分かれて討論した。

このプログラムを企画した西村紀公UWP副代表は「大学での受け入れ、ディスカッションは今回が日本で初めてのケース。熊本学園大学にはこのような立派な施設・環境を提供して頂いたことに感謝している。今後熊本からUWPの参加者が増えて欲しい」と話していた。



第15回外国人留学生弁論大会

第15回外国人留学生弁論大会が2005年6月18日、11号館で開催され、6カ国16名の留学生が約250名の聴衆を前に、流暢な日本語で熱弁をふるった。

審査の結果、最優秀賞には“歴史から学んだ事”のテーマで「今、韓国ドラマなどの影響で韓国と日本は良い関係にあるが、それは一部分であり、お互いの国の歴史について、もっと学び、次の世代にどう伝えて行くかが大切である」と訴えた韓国からの留学生、李世恩(リセウン)さんが輝いた。

また、聴衆者の投票によるオーディエンス賞は“目で話そう”のテーマで優秀賞(技術部門)と合わせベトナムからの留学生のレーミンヒェウさんが獲得した。

大会終了後には参加留学生と来場者らによる懇談会も行なわれた。



氏名	出身国	所属	弁論のテーマ
クリストファー ペトロニ Christopher Petroni	アメリカ	経済学部 国際経済学科4年	アメリカの牛肉とBSE
キム サン ウン 金 相 恩	韓 国	外国語学部 東アジア学科3年	世界で一番大切なもの
デイビッド コッタス David Kottas	アメリカ	経済学部 国際経済学科2年	私と宗教
サイ キン ギ 蔡 昕 宜	中 国	商学部 経営学科3年	赤信号は止まる 青信号は進む
クリス マエダ Chris Mayeda	カナダ	経済学部 国際経済学科3年	日本人 カナダ人 どっち?
チン ショウ 沈 祥	中 国	商学部 商学科2年	私の母
ジェシー ウェリング Jesse Welling	アメリカ	経済学部 国際経済学科4年	個人的な関係
レー ミン ヒェウ Le Minh Hieu	ベトナム	外国語学部 英米学科3年	目で話そう
リ セ ウン 李 世 恩	韓 国	外国語学部 英米学科3年	歴史から学んだ事
ジョン ベネット John Bennett	カナダ	経済学部 国際経済学科4年	日本だいすき
イ ス ヨン 李 壽 連	韓 国	商学部 経営学科4年	忘れられない混浴
ショーン ウォルトン Dishaun Walton	アメリカ	経済学部 国際経済学科3年	私の彼女
バウ ガ エン 莫 雅 絹	中 国	経済学部 国際経済学科3年	嬉しい でも涙が出る
リュウ トウ シン 劉 東 進	中 国	商学部 経営学科1年	食べる
バク ジン ヒ 朴 鎮 希	韓 国	商学部 経営学科4年	自転車がくれた思い出
エルファリシ ヤッセル El Farissi Yasser	モロッコ	大学院 経営学研究科2年	「まじめ」という言葉

北京第二外国語学院

Beijing International Studies University



李均建氏

北京第二外国語学院
国際交流与合作処 処長



北京第二外国語学院

1964年創立。近代的な教育設備で、各種のL L教室、同時通訳施設、学内ネットワーク、マルチメディア教室、学内テレビ局、衛星受信システム等を設置している。日本をはじめとする海外の69大学と交流関係を築いており、交換留学生、教員相互訪問活動を展開している。

キャンパスは北京市の東部朝陽区に位置し、各国大使館や中央ビジネス街にも近く、キャンパス付近まで地下鉄が通り交通は比較的便利である。

本学とは2005年に交流協定が締結。



北京第二外国語学院
BEIJING INTERNATIONAL STUDIES UNIVERSITY

扩大交流 增进理解 共同发展

北京第二外国語学院国際交流与合作処処長 李均建

神話传说中的巴比伦塔，因为施工人员的语言不通交流不畅，最后废弃了。虽然这仅仅是一个神话故事，然而却告诉我们，如果不能很好地交流与沟通，人与人之间便会产生误解，终将一事无成。

现今是一个科技信息高速发展的社会，人与人、民族与民族、地区与地区、国家与国家之间的联系从未像现在这样紧密。彼此怀着友好交流的良好愿望，无奈无法跨越语言、风俗习惯等差异所形成的鸿沟，那将是一件多么令人遗憾的事情啊。

北京第二外国語学院是在周恩来总理的亲切关怀下创立的，以外国语言文学为主体学科，以旅游管理为特色学科，文学、经济学、管理学、法学等多学科门类共同发展的综合性大学。广泛开展国际交流与合作，一直是二外办学的特色和优势。国际交流与合作处，作为学校对外交流的平台和窗口，自建校以来，与世界上十多个国家近70所高校和教育机构建立了全方位、多层次、实质性的交流与合作。每年都要接待来自世界各地的政府、外交、教育、友好团体和知名人士的参观、访问、考察。通过交流与合作，我们实现了对外学术交流、学者交换、学术资料和教育信息的往来，保证了二外的一些学科在学术上的领先地位，给学院的师生的成长提供了有利条件。最重要的是，通过我们的工作，使二外了解了世界，更使世界了解了二外。

今年11月，在多年实质性友好交流的基础之上，我院正式与贵校缔结了友好交流协议，我想这必将为两校今后的合作与发展带来更多的契机。希望在目前学生交流的基础之上，双方的交流能进一步扩大到教职员工、学术研究等更加深入的层面，通过这些交流与合作，在不断增进的相互理解和信任中，得以共同发展。愿两校携手，共同培养出有着高度专业知识，真正了解双方文化，致力于两国友好的优秀人才，为中日两国世代友好的友好尽微薄之力！

No.1, Dingfuzhuang Nanli, Chaoyang District, Beijing 100024, P.R.China
Telephone: 86-10-65778564, Facsimile: 86-10-65762520
Website: www.bisu.edu.cn

交流を拡大し、理解を増進し、ともに発展

神話の中のバビロンの塔は、工人たちが互いに言葉が通じなくなり交流が滞ったことが原因で最後には見捨てられたのでした。これは神話の一物語に過ぎないとしても、しかし私たちに多くのことを示唆しています。交流や意思疎通がうまくいかないと人と人の間には誤解が生まれることもあり、結果的に何も成し遂げられないことになりかねません。

現代は科学技術、情報化がめまぐるしく発展する社会である。人と人、民族と民族、地域と地域、国家と国家とのつながりは、未だ嘗てないほどにたいへん緊密である。互いに友好的でありたい、交流を持ちたいという願いを抱きつつも、言葉の壁を乗り越えることができずに、風俗習慣などの違いから溝が生じてくることはなんて遺憾なことでしょう。

北京第二外国語学院は周恩来の庇護のもと創立されました。外国語の言語と交流を主として旅遊管理など特色ある学科や文学、経済学、管理学、法学など多方面の学科が同時に発展してきた総合大学です。幅広い国際交流関係は二外の建学の特色であり二外の特徴となっています。国際交流処は大学の海外交流担当部門、窓口として建学以来世界10数カ国70校の高等教育機関と全面的な、様々な分野における実質的な交流をつくり上げてきました。毎年世界各地の政府、外交、教育、友好の団体及び著名な人士の参観訪問や視察などを受入れています。交流を通じて私たちは海外学術交流、学者の交流、学術資料や教育に関する情報の交換などを実現しました。これは二外の教育レベルがトップにあることを保証し、本学の教員や学生に有利な条件を提供することになっています。最も重要なことは私たちの国際交流という仕事を通じて二外が世界を理解し、さらに世界が二外を理解したということである。

今年11月、長年の実質的な友好交流を基礎として本学と貴学は正式に友好交流協定を締結しました。両校の今後の交流と発展に必ずや多くの好機をもたらすであろうと思います。現在の学生交流を基礎とし双方の交流が教職員交流、学術交流など一段と深いレベルでまで拡大し、これらの交流を通じ、なお一層理解を深め、信頼を強めて行く中でともに発展できることを願います。両校が手を携え、高度な専門的知識を持った、双方の文化を真に理解した、両国の友好に力をそそぐ優秀な人材を育成でききよう、中日両国世々代々の友好のために微力ながらも尽力していければと思っております。

陽が沈む国から陽が昇る国へ

経営学研究科 修士課程2年 El Farissi Yasser (エルファリシ ヤッセル)



一年半前に日本語で原稿を書くことなんて思ってもいませんでした。私はモロッコのカサブランカから来たエルファリシ・ヤッセルといます。2004年10月に熊本学園大学大学院に入学しました。そのときは、まだ日本語があまりできなかったのですが、大学院修士課程の授業と日本語の授業を同時に受けて、一生懸命勉強してきました。今まで本当に大変だったけれども、先生やスタッフの皆さんのサポートのおかげで進歩してきました。本当にありがたいと思います。

日本に来る前から日本という国についてものすごく興味もっていて、日本に留学することを念願しました。そして、やっと願いを叶えて、熊本で留学生活を送ることになりました。とても嬉しかったです。

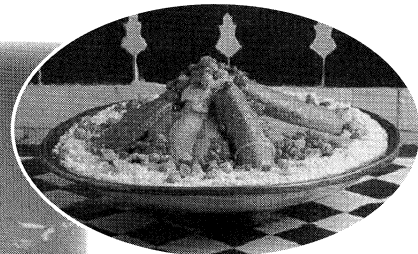
日本に来て、初対面の日本人からよく「モロッコはどこにあるの?」と聞かれます。知っている人もいると思いますが、モロッコはアフリカの北西にあり、地中海と大西洋の間に位置する国です。「モロッコ」というのは日が沈む意味をもつ名前です。日本へ留学することは、私にとって、日の沈む国から日が昇る国へと渡航することとなって、考えの中に何か不思議で、面白いことです。熊本とモロッコとの距離が遠いのか、モロッコのことをあまり知られていないようです。モロッコは国の大部分が砂漠で、一年中気候の暑い国とイメージされることが多いです。実際は、砂漠は面積の3分の

1しか占めておらず、残りはきれいな山と豊かな海です。一年中暑いイメージも違って雪が降るところもあります。例えば、アトラス山脈というのがあって、そこにあるスキー場は国内外からよく知られる観光スポットのひとつです。つまり、モロッコは海で泳いで、山でスキーなどの冬スポーツを楽しんで、らくだに乗って砂漠のオアシスまで行く、いろいろなアクティビティができるエキゾチックな国です。タンジヤ、カサブランカ、フェス、マラケッチュなどが日本人観光客によく知られる都市です。

学園大学に入ってから1年間を振り返ってみると、たくさんのことを思い出します。国際交流会館での生活はとても楽しかったです。いろんな国から来た留学生と一緒にすごすのは初めてなので、とても面白かったです。国際料理のパーティーをしたり、体育祭に出たり弁論大会にチャレンジしてきました。

その他、小学校訪問や、モロッコの文化を子供たちに紹介したり、ユニセフが主催する「アフリカの日」にパネリストを努めさせてもらってモロッコやアフリカの文化について皆と話したりすることも経験しました。また、一年半の間にいくつかのホームステイに参加し、日本人の日常生活を体験し、どこの本でも書いていない日本文化、日本人のことを学ばせてもらいました。

大学院卒業まであと半年、今後は今まで以上に国際交流に励み、将来はモロッコ発展の為に貢献したいと思います。



熊本にいる理由

経営学研究科 修士課程1年 Ngo Thi Bich Thuy (ゴ ティ ビイク トゥイ)

私は熊本そして学園大に来て、今年で5年目になりました。2001年に交換留学生としてはじめて学園大にやってきて、交換留学生から正規の私費留学生となり、そして現在、大学院生として在籍しています。まわりの友達から「そんなに学園大に長くいるのにあきてこないの？違うところへ行きたくないの？」ってたまに聞かれます。確かに、自分の知る友達が卒業や就職で居なくなることで寂しくなったり、どこかの違うところへ行きたいと思ったりする時もありますが、熊本そして学園大に来てよかったと確信しています。

交換留学生の時、大学の寮に住み、いろいろな国から来た友達と日本語の勉強で苦労しながら、それまでまったく知らない日本をどんどん発見していき、各国の料理を楽しんだり、週末に遊びに出かけたりして、忘れられないほど楽しい生活を送ってきました。この一年間のおかげで、たくさんの友達ができ、自分の価値観をより広めるチャンスを得て、将来の進みたい道を見つけることができました。学園大では留学生用の日本語や日本事情の授業以外に、日本人の学生と一緒に様々な授業に参加することもできます。そのため、教科書におけるスタンダードの日本語のみでなく、生きている日本語も覚えることができ、それに加えて専門的な勉強もできます。私はもともと日本語専門でしたが、学園大に来て、ベトナムで同時に勉強できない専門的な経営学を学び始め、それ以来

経営学の道に進みたいと決意しました。そして、当初一年間だけを楽しもうと思っていた日本での生活がいまでは5年になっています。

学園大にいる間、いろいろな体験をさせていただきました。ゼミナール大会に出場し、他のゼミ、他の大学の学生と討論したり、自分の意見をいかに相手に伝え、理解を得るかということを学んだりしました。そして、今では、大学院生としてゼミナール大会で、みんなの意見をまとめ、討論をスムーズに進行する議長団を務めています。

学習以外にサークル活動や交流・ボランティア活動にも参加しています。サークルに入って、グループ学習でパソコンの技術を身につけたり、サークル旅行したり、託麻祭で焼き鳥と焼きおにぎりを作って販売したりして、より充実した学生生活を送ることができました。学園大の国際交流センターは留学生のために熊本の自然と文化を満喫する旅や小学生と交流する機会やホームステイ企画など数多くの交流イベントを用意しています。そして、最近ロータクトという青年ボランティアグループに入って、日本の若者との交流をもちながら、社会になにかしら貢献できる活動をしています。ロータクトのメンバーと一緒に清掃、小学生との交流、そして老人ホームに訪問するなどの活動を行っています。



ロータクトクラブで老人ホーム訪問
(筆者は前列左から2人目)

日本で変わった人生

Christopher Petroni (クリストファー ペトロニ)

【2004年9月～2005年7月 アメリカ・モンタナ州立大学交換留学生】

ある風も雨もない日に、僕の人生がいきなり変わりました。あの日、巨大な飛行機から日本に降り立ちました。天気が蒸暑くて、ちょっと「やっぱモンタナにいておいたらよかったかな」と思いましたが、ついに熊本にいた十ヶ月は僕の今までの人生の中で最高だったと決めました。それに、僕が別の人となったように変わってきました。

僕がどう変わったか知りたいでしょう。では、気をつけて読めば、すぐ分かってくるかも知れません。

僕が熊本にくる前は、カナダで観光した一週間以外全然アメリカから出て行った経験はなかったです。知っていた見方はただアメリカの見方で、他の国の民がどう考えるのかさっぱり分かりませんでした。

初めて熊本に着陸したとき、気温は約30度でした。雪とひどい寒さに慣れたモンタナ人の僕にとって、つらかった。それより、日本語が下手で、日本文化もあまり分からなくて、日本人との関係は難しかったです。けれど、熊本に着いた最初の日から、「日本に来なかったらよかったかな」と一度も思わなかったです。

つらいことはありましたとはいえ、いいことは何倍も多かったです。天気が今まで経験したよりずっと暑かったですが、どんどん35度の気温にも慣れてきました。最初に文化と言葉が分からなくて人間関係が難しかったです、どんどん分かってくる、たくさん友達ができてきました。

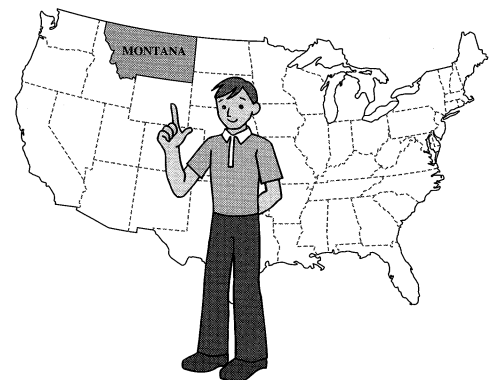
お寺や神社を訪ねたり、日本文化の茶道をしたり、生きている火山の火口を見たりするよういろいろなアメリカで絶対できない経験をしました。決して死ぬまで覚えてることは、熊本県の荒尾町に勤めている刀を作る人の場所で、刀で巻いた畳を切りました。それは一生の体験でした。

上のこと、しかも、ついに日本人の見方を少しずつ分かっていきました。日本のお祭りに参加して、日本の友達と付き合っ、日本の英会話学校にバイトして、日本人の世界との関係が少し見えるようになりました。それは多分アメリカ人にとって最も難しい点ですが、やっとできていったと思います。このモンタナの田舎者の僕はついに他の国の民の考え方が少しでも分かってきました。



交換留学生とのタベにて
(筆者は右端)

この文章を読んでも学生さんは少しでも留学しようと思っていれば、必ず待たずに実行したらいいです。世界のことも自分のこともびっくりするほど分かってくるかもしれません。



My Year to Remember

Chris Mayeda (クリス マエダ)

【2004年9月～2005年7月 カナダ・カールトン大学交換留学生】

Spending a year in Kumamoto was a way to take a detour from my life I knew it as up to this point. Everything was so different to the point where it was simply too hard to compare life in Canada and Japan. As expected, time in Kumamoto had its ups and downs, but either way, it was time well spent.

Before discussing anything else, it may be worthwhile to note that being of full Japanese descent, but possessing full (sometimes excessively) Canadian mentality, I had a perspective which I can say was unique relative to my friends who I had the joy of living with this past year. Coming to Japan, I had many preconceptions regarding my 'seikatsu', or daily life in Japan, the people I'd meet, the school, and everything else in between. Perhaps it was not such a good idea to engage in thought along those lines, but nonetheless, I quickly found out that half of what I expected was accurate, while the other half was not. In other cases, reality greatly surpassed my expectations in both positive ways, and negative.

Daily life in Kumamoto for the most part did not catch me off guard. Relative to other cities in Japan I have previously visited, it is relaxed, if not at times quaint. While I found the people of Kumamoto often struggled to warm up to the idea of seeing foreigners, let alone understanding how to treat them the way they would like to be, they remained open to the idea of becoming a more international city. I often dealt with people who were willing to sit down and listen. They were eager to learn. But above all, they were determined to try to know us. They were determined to understand us. However, regardless of the ambitions of becoming a city more fit for the new century, it was a city whose people who had a better grasp of their past, and what it is to be Japanese. It was a dedication to preserve its past, the very thread that holds Japan as a country that is admired and even awed by many in the West. While cities like Tokyo and Osaka can rightly brag as being the heart of activity in Japan, even they can learn from a city as relatively quaint as Kumamoto.

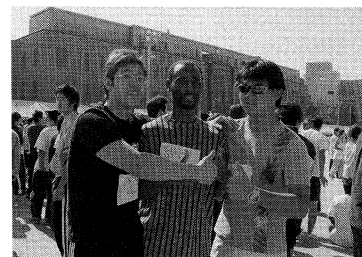
If I could wish for one thing, it would be for a missed opportunity. My academic experience felt as though it was missing something. I benefited greatly from language courses, and provided a major boost to my Japanese. Unfortunately, I still have many questions remaining regarding Japan, its people, history, and how it relates to modern issues such as business, or perhaps even leisure. For future classes, I only hope that Kumamoto Gakuen University realize the opportunity it has with each and every exchange student has to offer, and the highly capable group of people in its International Programs office. It is a mutual opportunity to hear what we have to say, but even more importantly, a chance to tell us what we should know about Japan, its people, its history, its businesses, and the challenges all our countries share together.

熊本で一年を過ごすと言うことは、自分の人生で回り道をする事だと知っていた。すべてが違う過ぎ、カナダと日本の生活を比較することすらできないくらいだった。わかってきたことだが、熊本では山あり谷ありの時を過ごした。そして、どちらであっても、賢く過ごした時間だったと言える。

他のことに言及する前に、自分の物の見方がこの1年間を楽しく過ごした友人と比較してかなり違っていたという事を書いておく必要があるだろう。それは、100%日系人でありながら、100%、或いは時に過度にカナダ人の思考方法をしているためである。日本に来るにあたって、日本での生活について、また自分が会うであろう人々や学校などに関しかなりの先入観を抱いていた。それはあまりいいことだとは思わないが、自分の期待が半分当たっていて、そして半分間違っていたことがすぐに分かった。間違っていた場合は、現実が自分の期待より遥かに上回っていた。それは良い意味でも、悪い意味でも。

熊本での生活が僕に不意打ちを掛けてくるということは殆どなかった。以前行ったことのある日本のほかの町に比べて、熊本での生活はゆったりしていた。時折風情があると言ってもいい。熊本の人々は、外国人が心地好く感じる待遇の仕方を理解しようとするのは勿論のこと、外国人を見かけることに対し好意的になろうと奮闘しながら、もっと国際的な町になろうという考えを持っているように見受けられた。座って聞くことを厭わない人々たちによく出会った。学びたいという意欲に溢れた人々だった。何よりも、本気で僕たちを知ろうとしていた。本気で僕たちを理解しようとしていた。だけど、新世紀に相応しい町になろうという夢はどうあれ、熊本は、過去を良く知り、日本人とは何たるかを知った人たちの住む町だった。それは過去を保存するための献身であり、西洋人の多くが称賛し、時に畏敬の念さえ起こさせる日本という国であるための最後の筋である。東京や大阪といった日本の活動の中心だと自慢できる都市さえも、熊本のような相対的に古風な町から学ぶことがあると思う。

もしひとつだけ願い事ができるとしたら、今回恵まれなかった機会を得ること。勉学の点で、どうも何かが足りなかった気がする。日本語のクラスはかなり有意義で、自分の日本語力はかなりアップしたと思う。だけど、残念ながら、日本について、日本人について、歴史について、またそれらがどんな風に現代のビジネスや余暇の過ごし方に関係しているのか、について、たくさんの疑問が残ったままである。将来に望むことは、交換留学生がどんな効果をもたらし得るかということに学園大学が気付くことである。僕たちの意見を聞くことはお互いにとって良いことだけど、それ以上に重要なことは、僕たちが日本について、日本人について、日本の歴史について、日本のビジネスについて、そしてすべての国が共有する課題について何を知るべきかを僕たちに伝える機会だと思う。



本学体育祭にて (筆者は右端)

十ヶ月の夢

Jeff Hsu (ジェフ ス)

【2004年9月～2005年8月 ニュージーランド・ユニテック交換留学生】

ある日の朝、目覚めた時、知らない世界に向かう最後の準備をしていた。その知らない世界は日本だった。耐え難かった十二時間ぐらいの飛行の後、行ったことがない日本に着いた。やさしい女性が空港に迎えに来て、次の十ヶ月に住む寮まで連れて行ってくれた。その寮には、世界の色々なところから来た人達が集まっていた。皆は別々の背景から来たが十ヶ月の間彼らと共に生活していたので皆は本当に親しくなった。

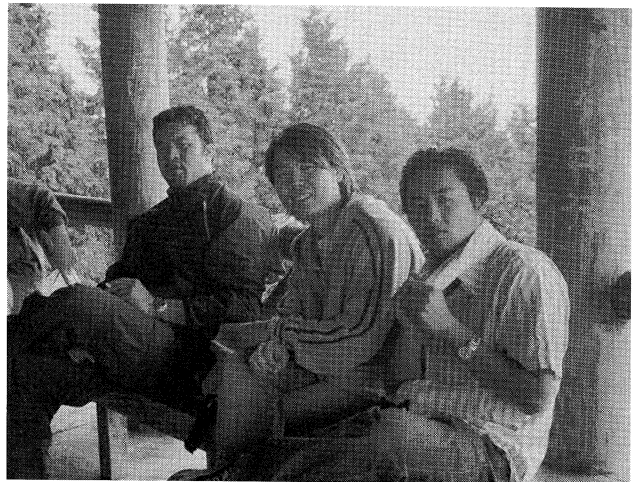
この十ヶ月に、日本の色々なところに行ったり、色々な人に会ったり、色々な日本の伝統的なことをしたりしたので、嬉しくて悩みが一つもない生活を過ごしていた。

十ヶ月の後、ニュージーランドに帰ってきてもう一度目が覚めた。今回はその十ヶ月の夢から目が覚めて現実に戻ったような気がした。だが、私はこれが夢ではないのを知っていた。これは、私の留学経験だった。

私は日本語を勉強していて日本に留学しに行く機会があったので日本に行った。向こうで無論、大学で日本語を勉強したが、大学の教育より、今でもいい友達の他の留学生や日本人の友達などと共に過ごした時間のほうが掛け替えのない思

い出になるに違いない。

留学期間はあっという間に過ぎていったような気がする。しかし楽しく充実した生活を送ることが出来たから、私は今、あの留学期間がとても早く過ぎ去ったと感じているのではないだろうか。



日本一の石段を登る途中、休憩所にて
(筆者は右端)



忘れられない混浴

李 壽 連 (イ スヨン)

【2005年3月～2006年2月 韓国・大田大学校交換留学生】

日本には韓国では見られない混浴という文化があります。私は混浴があるということを知ったことはありましたが、でも直接経験したことはありませんでした。しかし私は混浴というものを経験することになりました。私が日本に留学しに来てから1ヶ月ぐらいすぎた頃外国人や日本人と一緒に阿蘇に遊びに行くことになりました。私は2年前に語学研修で熊本に来た時阿蘇に行ったことがあったので、あまり期待はしてなかったけれども、外国人たちと一緒に始めて遊びに行くと私は日本の温泉にはじめて行くので行く前からワクワクしていました。

私たちは阿蘇について私たちが泊るペンションから20分ぐらい車に乗って地獄温泉に行きました。温泉についたら周りにゆかたを着てげたをはいた日本人がいました。ゆかたを着ている人たちは楽な格好に見えました。その日本人たちがうらやましかったです。私たちは温泉の料金を支払ってタオルを持って来なかったのでタオルを買いました。タオルがとても小さくて本当にびっくりしました。でも胸がわくわく期待して階段を上がって温泉に入りに行きました。

施設の規模があまり大きくなかったのです。こしがっかりしましたが、はじめて日本の温泉に入ったのでうれしかったです。最初はうれしかったけれどもしばらくたつと、その小さなオタルで体を覆って湯に入りました。その時下に見ると男の人の湯が見えて、一緒に来た外国人の中でトレバと目があいました。私はそのしゅんかん恥ずかしくてそのまま地面にべたりと座り込みました。そして木の間からしたの湯をそっとのぞき見しました。ほんとうに見たくて見たのではなく、おもわず私の目はその男湯を見ていました。特にトレバとダンカンをぜんぶ見てしまいました。私は今も忘れられないです。そのしゅんかん顔が赤くなって私は興奮をせずにお湯に入りました。

女の人と男の人のべつべつの温泉が終わってから、私たち女の方は勇気を出して混浴に行くことにしました。本当に小さなタオルだったのでなやみましたが、混浴というものを一回経験したかったので階段を一段づつおりました。そして混浴が見えました。本当に聞いたことだけでTVで見た混浴の

光景が私の目の前に見えました。びっくりして胸がどきどきしたけれども、なんでもない混浴に慣れた日本人を見てわけもなく1人で恥ずかしくなり頭を下げました。でも私の目はしきりに湯にはいる日本人のほうを見ていました。勇気を出して混浴に入ることにしました。胸がどきどきし、足がぶるぶる笑っていました。わたしたちは「ファイト」とさけんで、1・2・3を数えたらすぐ早く走って行くことを約束しました。でも走っていく時外を見たら、男の人たちがお湯に入って私たちの方を見ているところでした。本当に恥ずかしい思いをかくし、オウさんからサンウン、ジンシの順で走って行きました。最後だった私はみんなが走って行く後ろ姿を見てとてもびっくりして声を出しながら座りました。わたしは本当に足がぶるぶるして行くことができませんでした。結局、私は1人で残ってお湯に入らないで後ろに隠れて見るだけになりました。そして、1・2・3を叫びながら湯に入った女の人たちがすごいと思いました。

私は一緒に入らなかったけれど混浴というのはどんなことかを感じ知って、これが日本の一つの文化だということを感じました。はじめてだからびっくりしたけれども忘れられない面白い経験でした。今もその事を考えていると胸がどきどきでもとてもおもしろくて特別な経験でした。機会があったら勇気を出してかならず混浴に行ってみたいです。日本で留学生生活をする間にこれからこのようにゆっくり日本の文化について一つずつ知っていくつもりです。(弁論大会の原稿)



手作りの歓迎会にて腕をふるう韓国からの学生たち
(筆者は右端)

日本での思い出

付 細 月 (フサイゲツ)

【2004年4月～2005年3月 中国・深圳大学交換留学生】

日本での一年間の生活はあっという間に過ぎてしまいました。しかし、福岡で飛行機を降りて、日本の大地に足を踏んだことは今でも昨日のことのようです。短い一年間でしたけれども、たくさんの方々に出会い、たくさんの良い思い出を作り、様々なことを勉強することができました。

実は、日本に行く前には日本での生活になれるかどうか、友達ができるかどうかといろいろと心配していました。しかし、ご親切な国際交流センターの方々や先生方に恵まれ、様々な国からの留学生と日本人の学生に囲まれたので、不安も心配も一遍に消えてしまいました。ですから、一年間の交換留学を無駄にしないように、毎日を精一杯過ごし、大切にしながら、翌日の来るのを楽しみにしていました。学校の勉強も楽しくしていたし、ホームステイや交流会などのイベントにも積極的な参加し、弁論大会も挑戦してみましたので、今までの人生の中で一番充実感があって、本当に最高の一年間だと言えます。なぜかという、私はその一年間の中で、数え切れない収穫を得たからです。

まず、日本に着いたその翌日、会館の管理人さんである寺田さんに「他人に迷惑をかけないでください」と言うことを教わりました。日本語を勉強し始めてから、ずっと日本人は思いやりがあると聞いてはいましたけれども、他人への思いやりは他人に迷惑をかけないことと切り離せないということはその時初めて理解しました。その時から、私は約束の時間や、ルール、規則をきっちり守り、自分のできることは他人に頼らずに自分でするようにしてきました。ですから、他人に迷惑をかけないという良い習慣が身につけてきました。

次に、私は日本で自分の人生の夢を見つけました。入学式で学長が「やる気があれば、夢が叶う」とおっしゃいました。部屋に帰ったら、すぐにその言葉をノートに書いておきました。それに、ルイン先生も授業の中で何度も夢の大切さを教えてくださいました。ですから、教師になって、たくさんの人に知識を教え、数多くの人を助けるという子供の時からの夢は一層はっきりしてきました。さまよった時は、いつも学長とルイン先生のおっしゃったことを思い出したら、また前向きになって頑張ることができます。



餃子の皮をこねる筆者

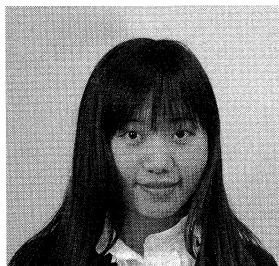
何よりも大切なのは日本で運命的な人に出会ったことです。文化が違う私たち二人は同じ夢を持ち、相手の意見や文化を尊重し合っています。毎日の楽しみも悩みも分かち合っています。彼は前向きで、いつも私を支えてくれて、私に勇気とエネルギーを与えてくれます。今は二人で将来の計画を立てています。その計画の中の一つはいつかまた二人で日本、熊本に戻ることです。

交換留学が終わって、帰国してからも、8ヶ月が経ってしまいました。けれども、時間が経てば経つほど、日本での生活が懐かしくなり、日本に戻りたい気持ちが一層強くなってしまいます。今はきっといつかまた皆様と再会する日が来ると信じて、日本で学んだことを生かして、中国での日々の生活を精一杯頑張っています。それに、より多くの中国人に日本のことを理解してもらうために、人々に自分の日本での生活や体験、出会った人々のことを周りの人に語っています。熊本学園大学で過ごした一年間とそこで出会った方々、学んだことは私の人生の宝物です。ここで、学園大でお世話になった方々に感謝の意を申し上げます。皆様、謝謝。

熊本での留学生活

Le Minh Hieu (レー ミン ヒェウ)

【2005年4月～2006年2月 ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校交換留学生】



私はベトナムから来たヒェウです。私は2005年4月から2006年2月までの約11ヶ月間、熊本学園大学に留学しました。私が日本に留学をしようと思ったのは小学生のときでした。その時、私は日本の漫画が大好きだったのですが、漫画に書かれていた「どら焼き、こいのぼり、床の間」などの日本独特のものが分かりませんでした。それで、一度日本に留学してみたかったのです。今回、熊本学園大学に来て、漫画に書かれていたことが理解できるようになったのみならず、日本の生活、日本の年中行事、熊本のことが少しわかるようになりました。

11ヶ月間の留学生生活を振り返って、一番心に残っていることは、安永愛子ちゃんの家にもホームステイさせてもらったことです。愛子ちゃんの家族は私を温かく迎えてくれて、自分の子供のように扱い、一年中、楽しい時も、寂しい時も私のそばにいてくれました。そして、私は愛子ちゃんの家族と一緒に旅行したり、お正月を過ごしたり、料理を作ったり、話したり、とても楽しい時間を過ごしました。愛子ちゃんの家族と出会えて、本当によかったと思います。

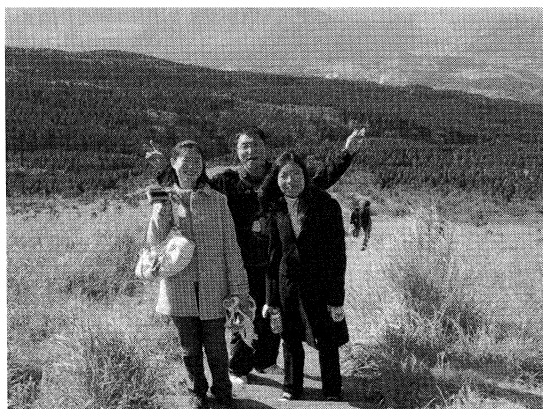
また、11ヶ月間、私は熊本学園大学の国際交流会館（留学生の寮）に住んでいました。寮にベトナム人は私しかいないので、ベトナム語が使えなかったし、その上、今回は初めて両親のそばを離れて、突然一人暮らしをすることになったので、最初に来た時、私はとても心配で、ひどくホームシックにかかりました。しかし、寮の管理人さんと寮の友達がとても優しくしてくれたおかげで、私のホームシックはだんだんなくなっていきました。寮の管理人の寺田さんは私たちの留学生活が楽しくなるようにいろいろと工夫してくれました。ひな祭りにひな人形を飾ったり、子供の日にこいのぼりをあげたり、お正月に鏡餅と門松を立ててくれたりしました。それに、一年中寮の庭と寮の玄関に寺田さんが育てている花が置いてあって、とてもきれいでした。寮ではよくパーティがあって、留学生と日本人の学生と一緒に遊び、楽しい時間を過ごし、仲の良い友達になりました。11ヶ月が経って、寮は

本当に私の家と同じように居心地の良い所になりました。

それから、大学では日本語の授業だけでなく、英語と経済と異文化理解論などの日本人の学生と一緒に勉強する授業を取りました。授業は難しかったのですが、面白かったのです。先生方は私に親切にいろいろなことを教えて下さいました。日本人の学生さんもととても親切に私にノートを見せたり、一緒にお弁当を食べたり、授業で一緒に座ったりしてくれました。先生方と日本人の学生さんたちのおかげで、私は自分の視野と知識が広がったと思います。

日本に来て、大学で勉強する以外にも、学園大学の国際交流センターのスタッフの皆さんが、私たちのために企画してくれた旅行や、インターンシップ、ホームステイ、成人式などに参加でき、本当にいい経験になりました。

今回の留学は私にとって非常に貴重な経験となり、自分が成長できたと思います。今後、この経験を生かしていきたいです。最後に、私を留学させてくださった大学の関係者の皆さん、私を一年間世話してくださった国際交流センターのスタッフの皆さんと寮の管理人さんたち、楽しく意味深い一年を作ってくれた友達みんな、ありがとうございました。



阿蘇杵島岳登山
(筆者は右端)

たくさんのステキな贈り物

外国語学部 英米学科4年 田中 千春

【2004年8月～2005年5月 アメリカ・キャロル大学へ派遣】

私の留学は10ヶ月という限られたものでしたが、辛い涙もたくさん流しました。遠く離れて住む家族に支えられ励まされて、今まで気づかなかった家族のありがたさに気づき、自然と涙がこぼれてきたこともあります。すばらしい友人たちと出会えた喜びで生まれて初めて嬉し涙も流しました。キャロル大学に留学して、今までの自分の在り方、考え方を根底から覆すような、そんな衝撃的な出会い、経験をして、少しだけ成長できたような気がします。

シアトルで墜落するのではないかと思うくらい小さなプロペラ機に乗り換え、一路モンタナへ。いよいよ到着、というとき、私は空から一際目立つ赤いレンガの建物を見つけました。それがキャロルだと気づき、私はあんなに美しい学校でこれから生活できるんだ！！と心躍るようでした。それからの留学生活は期待していた以上に素晴らしいもので、嬉しい驚きの連続でした。私がキャンパスを歩いていると、みんなが笑顔で挨拶をしてくれ、私が建物の中に入ろうとしていると、自分が出た後、ドアを持って待っていてくれるのです。この行為には、心から感動しました。私も彼らに習って、そんな良い所はすぐに真似をするようになりました。

それから「真似すること」は、私の留學生活の基本となりました。しかし、早速第一の壁が私の前に立ちました。「ハグ」です。とりあえず、チャレンジしてみたものの、恥ずかしいやら、おかしいやら・・・ハグの次は「言葉」の壁。「I love you」や「I miss you」という何だか気恥ずかしい言葉の数々。これには初め強い抵抗がありましたが、ハグも言葉もいつの間にか習慣の一部になっていました。「誰はばかることなく、自分の想いを言葉にして、さりげなく相手に伝える」、「愛しいという気持ちをハグという形で表す」、こんなアメリカ流の感情表現も、友人とふれあううちに学んだことの一つだと思います。

寝る時間も惜しいほどに楽しく、充実した留學生活でしたが、留学中たった一つだけ、心底苦しく、悲しい出来事を経験しました。私の祖父の死です。たまたま春休み中で、大学を出て、友達の所へ遊びに行っていた私は、日課だったメールチェックを怠っていました。数日後メールボックスの中に見つけた「祖父の死」。本当に突然のことで、それからは、ただこの悲しみを乗り越えようと必死に毎日を過ごしていました。どうしてこんなときに私は留学なんてしてしまったのだろうか、と自分に対して無性に腹が立ち、悔しくて、ずっと泣いていました。

しかし、この辛さから私を救ってくれたのもやはりキャロルでした。私は、祖父が亡くなって数日後の祖父の誕生日に教会へ向かいました。そこで偶然仲のいい友達と会い、経緯を話すと、彼女は「これから千春とあなたのおじいちゃんのためにお祈りをさせてもらってもいい？」と言うのです。私の手を握って、「私はずっとあなたとあなたの家族の幸せを祈っているわ。」と言ってくれたのです。自然と涙が溢れ、私は手に握り締めた祖父の写真を見つめながら、「やっぱりキャロルに来てよかったよ」と心の中で祖父に語りかけていました。私独りでは絶対にこの苦しみを乗り越えることは出来なかったと思います。しかし、幸運なことに私は独りではありませんでした。キャロルと学園大、両方の国際交流センターの方々、家族、また数多くの友人に支えられ、残りの留學生活もしっかりと全うし、これ以上ない素晴らしい一年を過ごすことが出来ました。

アメリカという国、それからそこに住む人々は私に数え切れないほどたくさんの贈り物をくれました。“ビッグスカイ”と呼ばれるモンタナの青い空は私を励まし、いつも穏やかな気持ちにさせてくれました。キャロルの心優しい友人たちは、いつも私にステキな言葉とハグくれました。自分自身と極限まで向き合い、弱い自分を知り、挫折・失敗を繰り返すうちに強くなり、そうして、ついには新たな自分を発見することも出来ました。この経験は何物にも変えられない、かけがえない私の一生の宝物です。

私の夢を応援し、支えてくれた家族、先生方、友達、国際交流センターのみなさん、それから私に留学というステキな贈り物をしてくださった学園大学には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



大好きな友達がみんなで計画してくれた
Surprise Birthday Party !!
(筆者は前列左から2人目)

Priceless

外国語学部 英米学科3年 西岡 朋美

【2004年8月～2005年5月 アメリカ・インカーネットワード大学へ派遣】

面接官「では、西岡さん。どうしてアメリカに行きたいの？」

私「今の自分の英語がどこまで通じるのか、そしてどこまで伸びるのか見てみたいんです。アメリカ以外の国には行きたくないです。」まっすぐな瞳で訴えました。そして決定したアメリカへの一年間の留学、最小限の日本語で！と意気込んでいた私の大学2年の夏は、テキサス・サンアントニオから始まりました。

今日は私がアメリカ・テキサスで会得したプライスレス3点セットについて語っていききたいと思います。

① **24時間生の英語を聞ける環境。** カフェテリアで、トイレで、寮の階段で、色々な所で色々な英語を聞いてきました。聞き取れない自分にイライラしながらも、人の会話というものは万国共通気になるものです。それにしても、良くも悪くも環境に染まる私にとってこの環境はプラスに働いたようで、アメリカに来て3ヶ月を過ぎたころになると頭の中で英語→日本語という過程が面倒臭いということに気づいて、英語→英語という回線が出来てきました。(食生活に関しては悪く働いたようで、写真と今現在の私を見れば一目瞭然です。)

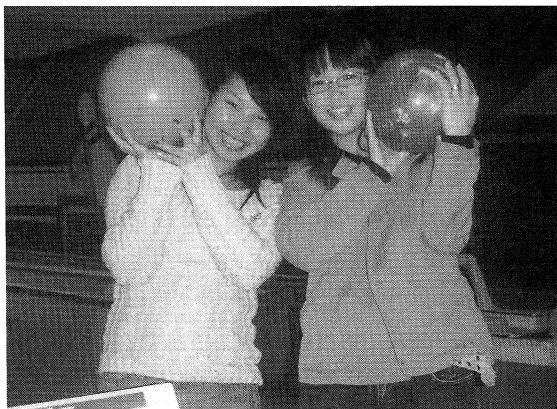
② **冬休みのホームステイと春休みの旅行。** 冬休みは大親友のキンインの計らいで彼女の家にホームステイ体験、そして彼女の叔父さんがいるサンディエゴへと旅行に行きました。春休みは、他の留学生と一緒にニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントンDC、ボストンを巡る旅行をしました。その4州間の移動手段はすべてバスだったので結構、いやすごく腰と首が痛い思いをしましたが、生の自由の女神や、ナイアガラの滝や、エンパイヤステイトビルディングといった名所を肌で感じ、今までテレビでしか見たことのなかった世界を私のこの目で見る事ができてこれまたプライスレスな時間でした。

③そして何とんでも「キンイン」、そして彼女の周りの友達**の存在。** 留学生オリエンテーションで出会って(半ば強引に)彼女の家に連れて行かれたのがきっかけで、私たちは急速に距離を縮めていきました。帰国後にはキンインと

彼女の家族に会いに中国まで行きましたが、今後は彼女の生まれ故郷である香港に行きたいと思っています。(彼女についての詳細は留学報告書をお読みください。)

以上三点述べてきましたが、え？大学での勉強は？？と思う方がいらっしゃるかもしれないですね。はい、してきましたよ。特に思い入れが深いのがComposition(日本語で言う日本語文章表現)とSpanish(スペイン語)です。(写真参照)Compositionではクラスメートのタイピングの速さや物事の深い考え方に感銘を受け、Spanishでは初日からスペイン語バリバリのクラスメートに目が点になったのを覚えています。(さすがサンアントニオ、全人口の58%がヒスパニック系、皆様スペイン語がお上手です。)

結局のところ私の英語がどこまで伸びたのか、言葉では言い表せません。確かに四六時中英語という環境にいると英語の吸収は早いです。しかしこれだけは言えます。留学したら英語がべらべらになるのではなく、どこにしよう自分とだけやめるのかにかかっているのだと。良い事ばかりではありませんが、学べるものは人一倍あるこのアメリカに行けて本当によかったです。日本とは180度違った世界、生活習慣、そして言語で約10ヶ月生活し通した自分も含めて、すべてがプライスレス。



留学中にできた大親友キンインと
(筆者は左)

幸せを実感する瞬間(とき)人は

経済学部 国際経済学科 3年 村上 真優美

【2004年7月～2005年5月 カナダ・カールトン大学へ派遣】

今でも繊細に覚えているあのワクワク感・・・！飛行機に乗り込んだ瞬間、夢の一つが実現し始めるんだと思うと目がパッチリと冴えて計18時間に及ぶフライトも熟睡できなかった。オタワに降り立つと最初に、「意外に暑い」と思った。自分の中で“カナダ=寒い、冬、雪”というイメージが強かったからだ。私はこの日から約10ヶ月の留学生活を通してカナダには四季があることを知る。そして、季節によってさまざまな表情を持つ、雄大で美しい自然と共存するカナダに住む人々を好きになっていくのである。もちろん、Tim Hortonsのコーヒーとドーナツも、メープルシロップも、大学にあるバー「Mike's Place」も好きなのだけど。

豊かな自然に囲まれて暮らしているためか、カナダに住む人々は穏やかで優しい雰囲気がある。見知らぬ人でも「Hi」と挨拶をし、にこっと微笑んでくれることがよくあった。「海外一人暮らし初体験」の私にとってありがたい環境である。それに、オタワは首都であるが勉強も遊びもバランスよく堪能できるサイズの街であった。

では、具体的に何を話したかを話していこう。留学先のカールトン大学はビジネスの分野において有名な大学で、ネイティブも「That's too much!」と喋って課題やテストに追われる。チャレンジャーの私は通年で二科目「Basic Marketing」と「Organizational Behaviour」を受講した。これらは、苦労したが「Organizational Behaviour」のプレゼンテーション（スーツ着用！）が終わった後クラスメイトに「I liked your presentation!」と声を掛けてもらったときは、思わず廊下で「Woow!!」と叫びたくなるほどうれしかった。その他に、英国文学やフランス語などを受講した。どの科目も課題が多く一年中勉強していた。テストは一科目三時間あるし時間が足りないくらいたくさん問題があるので必死で勉強した。テスト期間は飲むコーヒーやホットチョコレートの量が増した。

勉強も頑張ったけれど、思う存分遊んだ。部屋に一日中居る日はほとんどなかった。私は三人のルームメイト（2人カナダ人、1人イギリス人）と寮で暮らしていた。寮には他の交換留学生も住んでいて、みんなでご飯を作ってパーティを



カールトンの交換留学生の仲間たちと
（筆者は中央左から3人目）

したり、映画をみたり、ジムでスポーツしたりした。週末はクラブやバーにいったりビリヤードやボウリングをしたりした。各学期に一週間ほどの休みしかないが、ニューヨーク、トロント、モントリオールなどを旅行した。あと、カナダといたらウィンタースポーツ！世界で二番目に大きいゲレンデにスノーボードに行ったり、運河が凍ってできる世界一長いスケートリンクでスケートをしたりした。スケートをしながら「ビーバーのしっぽ」といわれる揚げパンの上にチョコレートやメープルシロップがかかった名物を楽しんだ。

毎日が新しく楽しくってドキドキだった留学生活。その中で二回泣いたことがある。留学生活1ヶ月目の八月半ばと、帰国が迫る四月半ばそれはバスルームで起こった。バスルームに入った瞬間に涙がポロポロとこぼれ始めた。しばらく自分でもどうして泣いているのか分からなかった。落ち着いてくると胸の奥にとってもあたたかいものを感じ、自分がカナダにいること、日本から支えてくれている友人と家族、新しい人々との出会いに感謝し「幸せ」を実感して泣いていることに気づいた。幸せを感じて泣くという貴重な経験をした瞬間だった。留学中は感情が豊かになり、周囲や自分の気持ちに敏感になる。この時期に新しく気づいたこと、感じたこと、経験したことをこれからの生活で生かしたい。たいへん有意義な留学生活でした！

私の先生はチングー(友達)

経済学部 経済学科 4年 白石 恵理佳

【2004年3月～2005年2月 韓国・大田大学校へ派遣】

私は小学校の修学旅行で初めて韓国に行きました。着いてすぐ目に入ってきたハンゲルの看板、聞こえてくる韓国語の会話、食べたことのない食べ物、とにかく全てが新鮮で異文化を楽しむと同時に、すぐに韓国文化に魅了されました。その後も、ホームステイや旅行を通して韓国へ訪問しました。これらの経験から韓国人の友達ができて、文通するようになり、友達ができてからはますます韓国に対しての興味が深くなりました。私が進学を熊本学園大学に決定した理由は、大学の交換留学で韓国に留学することができるからでした。韓国留学は大学に入学する前からの夢でした。大学に入学してからは、毎日国際交流センターに出向き、資料調達をしていました。そんな中、私が大学1年生の6月に留学の募集が開始されたので、語学力は全くなかったけれど、とにかくやる気だけはあったので、難しいことは考えず、「韓国で勉強したい」という単純な思いだけで応募してみました。私にとって韓国留学は夢だったので、そんなに簡単に実現できると思っていなかったのですが、運がよく留学の切符を手にすることができました。

私が韓国に留学入りをした2004年3月はとても寒く、100年に1度の大雪に遭遇しました。留学開始そうそう、大雪のため学校は休校になるし、外出もできず、寮で先行き不安な日々を過ごすことになったのです。しかし、大雪も1週間ほどで収まり、改めて留学生活がスタートしました。大学に行ってみると驚くことがたくさんありました。それは、私たち日本人に興味を持ってくれる学生が非常に多いということでした。歩いているときもたくさんの人に声をかけられるし、最初の頃は自分がアイドルになった気分になりました。また、この国では自分は外国人なんだという意識が生まれました。やはり、韓国人の人が私と接するときは、外国人＝特別なんだという意識で接していたように感じました。そのことが私としては窮屈でした。何事にも、固定概念、イメージはあります。人と接するときだって、それらは付いています。自分も外国人と接するとき、「あの国の人はこうだから」という固定概念がある気がします。だから、仕方がないことかもしれません。しかし、「日本人だからこうなのでしょう」と思われる

のは嫌でした。日本人としての私ではなく、1人の人間として私を見て欲しかったのです。そのために、私はまず自分の固定概念を捨てました。「韓国人はこうなんだ」という見方をすることをやめ、「この人はこうなんだ」という接し方をするようにしました。また、「日本人はこうなのでしょう」という質問に答えるときも、「日本人だからみんながそうだとすることはない」、「私はこうだよ」と答えるようにしました。月日がたつにつれて、私は自分が外国人なんだという意識が薄れていきました。現地の友達も私を特別扱いしなくなりました。そのおかげで、家族のような存在の親友ができました。日本では、「親しき仲にも礼儀あり」ですが、韓国にはそのような諺はありません。だからこそ人間関係のつながりの温かさを身にしみて感じました。今留学生生活を振り返ってみると、私が経験したこと、教わったものは、全て友達がいたからできたことだったと思います。留学中、私にとっての先生は友達でした。

留学をして学ぶものは人それぞれ違います。留学する国、出会う文化や人様々です。その中で得るものは多く、得たものは、自分の財産になります。私の得たものの中で、固定概念に縛られない柔軟な思考力は、自分の人間性の向上につながりました。



CORRY ファミリー
(筆者は前列右から2人目)

「留学」を通して得た熱意とパワー

外国語学部 東アジア学科卒業 尾田 美紀

【2004年2月～2005年1月 中国・中国人民大学へ派遣】

皆さん、こんにちは。私は平成16年度中国人民大学への派遣留学生、外国語学部東アジア学科卒業生です。

今回は「現在の私」と「留学中の経験」、この2点をお話します。

「現在の私」

現在私は中国の天津市にいます。現在中国人の社員の方と全く同じ条件（待遇や仕事内容など）で仕事をしています。私が中国にいる主な理由は二つです。

一つ目は、中国の生活が好きなのです。例えば、生活のリズム・食生活・人間関係等、挙げれば切りが無いのですが、おそらく中国での生活は私の価値観とうまく適合しているでしょう。私にとって、ここでの生活はとても心地いいのです。

二つ目は、大学4年間で学んできた中国語を今後も継続して学習していきたい、また更に自分の中国語レベルを上げたいという思いがとても強かったから、と言えるでしょう。幾年後、「私の専門は中国語です。」と胸を張って言えるように仕事で使用できるレベルにはしておきたいと思っています。

去年二月、留学を終え帰国後、まず自分の将来設計について考えました。そこで、中国語を鍛えなおそうと決心しました。しかし、中国語のみできても社会に出て通用しなでしょう。「社会人としての経験も必要」ということに気づきました。両親の理解と援助を経て、「中国現地での社会経験」が実現しました。日本での仕事と異なる点、「言語」。又学生の身分と異なる点、「仕事の役割・責任感」、つまり一挙兩得の環境にあることは、社会人の経験のない、且つ中国語を鍛えたい私にとって恵まれた環境なのです。その環境の中で正に日々学習、日々奮闘です。このような刺激が心地よく充実した毎日を送っております。

「留学中の経験」

それでは留学期間中にどのような経験をしたのか、そして留学が私にどのような影響を与えたのかという点についてお話しします。

留学して経験したことを具体的に挙げると、平日の授業・休日、放課後にはクラスメートと北京の探索へ出かけることもあれば、放課後を利用して書道の課外授業に参加をしたり、

中国人の学生と「相互学習」をすることもありました。「相互学習」とは中国人の友達とペアーを組み、時間を区切り、お互いに教え合うという要領で行う学習です。彼らとの学習を通して、語学だけでなく中国の学生の考え方、学習に対しての姿勢等について改めて考えさせられました。ある日本語学科の中国の学生と将来について語っていた時、彼女はこう言いました。「父母は一生懸命働いて私を大学で勉強させてくれる、だから私は期待に応えなければならない、いい仕事について親孝行をしたい。」と。彼女の自信に溢れた発言と凛とした態度は今でも鮮明に記憶に残っています。私たち日本人の忘れがちな部分を指摘してくれました。彼らとの学習を通して、私は刺激・パワーをもらったのです。そして学習に対しての情熱を再度気づかせてくれました。留学を通して得難い新鮮な価値観に触れ、見聞・視野を広げることができました。

それゆえ、現在の私があります。以後、学び取ったものを十分に発揮し、それを磨き続けていきたいと思っています。留学の一年間で「中国語を一生かけてゆっくり確実に自分のものにしていくこと」という大きな課題を見つけ出しました。掛け替えのない財産です。

最後に、私に一年間の留学という機会をくださり、改めて熊本学園大学の交換留学関係者の方に深く御礼申し上げます。

この場をお借りしまして一言申し上げます。両親の理解と援助なしでは今このように中国にはいられないでしょう。父母、また、私を支えてくださった方々へ、心よりありがとうございます。



私のクラスメート
(筆者は中央右から2人目)

ごんちゃんのベトナム日記

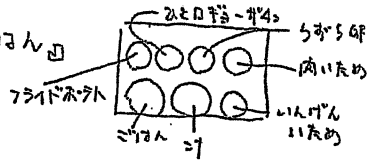
社会福祉学部第二部 社会福祉学科 4年 権藤 真由美

【2004年9月～2005年6月 ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校へ派遣】



私にとってのベトナム留学は、リアルなものでした。一生涯のベトナム人の友人もでき
実りある留学生活となりました。この貴重な経験を今後の研究にいかしてい
たいと思っています。ここでは、留学期間中に書いた8枚のうちの1枚を載せています。

『学食のごはん』



「ベトナム」(11500円) 日本円にすると100円くらい？
安く食べられます！けれど、ほとんど味の味の味い
ません。この食事は、ベトナム人の学生さんが
見たら、とてもおいしく感じるもの。ベトナム人の学生
さんは、日本円200円くらいの量で食べています。

『待電・断水』 2日に1回は、停電、断水。たいてい12時内。短い時は30分くらい。
毎日、穴かきバケツに水を貯めています。トイレの水が流せなくなることもあるのよ。～

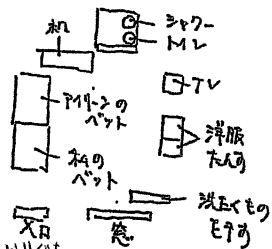
『授業中に』 授業中に、生徒らしき男の人が教室がわからず入口に立っていた。何か、「おや、い
があるように見えたが、よくわからなかった。先生(ベトナム人)は、クラスメイトに、中国語で「誰か
？」と説明し、みんな笑っていた、なぜ？中国もベトナムも「おや、い」に似ているのは
私の語学力では難しいなあ。けど、帰国までには慣れておきましょう。

『ハノイ日本語まつり』 ハノイの大学生が「日本語でスピーチできるという」ことを知りに行き
ました。そこに俳句、川柳部門もあって、なかなかベトナムの味を「？」の「紹介」しま

- 1位 → 「奥さんが お金持ちで 僕の夢」... 女の子の夢を思ふこと
- 2位 → 「こいびとに 怒ると うちで 犬をける」... ベトナムは、他人のしとが激しい。
- 3位 → 「1時間、産まわって 結局 最初の産婦を」... ベトナムの産婦は、水産高産が
多々ある。

日本人中学生 → 「クラクション、危険ではなく コラ！ ビンヤ」
確かに、日本でクラクションを鳴らす時は、危険を知らせる時が多い。この街は、クラクション
が鳴らばなし。自転車もバイクも車もバスも同じ車線を走る。信号も少ないのに、横断
歩道もほとんどない。今だに1人では 通れなない。

『現在の部屋』 今日、中国人の20才の女の子と2人で「住んで」います。



この部屋を見ると、狭いに見える？ 部屋の中は、くもとありと、おじ
だちで。なるだけ、清潔にしたいように掃除はしています。
外では、夜中までマーチン大会が「あつて」います。近いうちに、その子たち
は、引越るので「静か」になる予定です。8人部屋よりかは、はるかに
幸せです。ベトナム人の学生さんたちが住んでいる寮へも行きました。
寮の中は、清潔で「きれい」でした。

『授業の会話の練習に』 ベトナムでは、人の容姿に気をとることを
例文にします。例えば、「あの人はとても美しい」「あの人はやせている」等々。
この間、授業で体重の聞き方について勉強しました。先生は、「ベトナム語？」
「権藤さんの体重は何キログラムだ」と思いますが」とクラスメイトに質問し、「55kg」
「60kg」と、それぞれ、思ったままに答えてくれました。それを聞いた先生は、
黒板にベトナム語で「とても美しい」と書き、うかがくクラスメイト。
「これはベトナム。けど、ひそかに人ごんだ」私でした。o
Hen gặp lại = また会いましょう o 例文であつて

Dickensの生まれた国、英国

国際文化研究科 国際文化専攻
修士課程1年 奥山 泰介

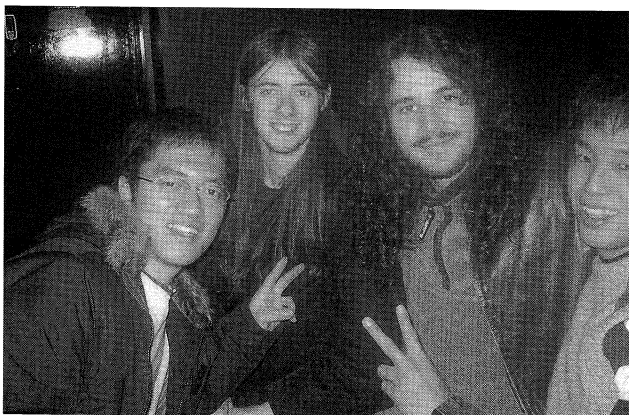
【2005年2月～3月 イギリス・リバプールジョンモーズ大学へ派遣】

私は現在、学園大学の大学院で英国を代表する作家 Charles Dickens の文体について研究しています。私が英国に留学した理由も卒業論文で題材にした Dickens の Great Expectations という小説がきっかけでした。この小説に出てくるテムズ川のほとり、バッキンガムストリート、ミンスミートパイ等、英国に行かなければ見ることの出来ない物をこの目で見てみたい、そういう思いでこの短期派遣留学に応募しました。これらの実物を見て帰国した後、私は今まで平面的にしか読む事の出来なかった小説を立体的に読む事が出来るようになりました。小説に出てくる場面をありありと想像でき、より深く読めるようになったのです。

つまり留学をするという事は今まで日本に居ては見えなかった物が海外に行くと見えるようになる、そういう事なのだと思えます。

「井の中の蛙大海を知らず」という言葉があります。この言葉はよく留学をする際に例えられます。たしかに世界という大きな海に出てみる事も大切です。しかしその前に日本の事について知るとい事の方がより大切だと帰国してから感じさせられました。先ほどの言葉には続きがあります。「井の中の蛙大海を知らず、されど天の高さを知る」留学をする前に天の高さがどれほど高いものなのかを知る必要があると思えます。我々はミニイギリス人でもミニアメリカ人でもありません。日本人として何が出来るのか、その答えを探す事が本当の意味での international な人間になる事につながるのではないのでしょうか。

これから留学される方達の現地での生活が爽り多いものになる事を心から願っています。



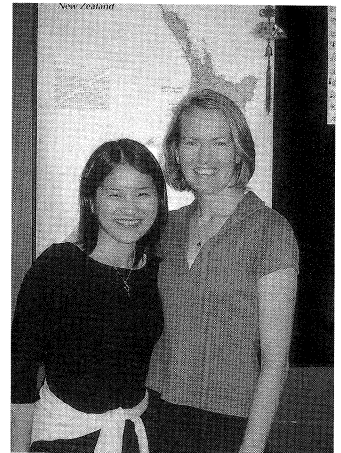
(筆者は左端)

ニュージーランドで学んだこと

外国語学部 英米学科4年 清田 絢子

【2005年2月～3月 ニュージーランド・ユニテックへ派遣】

ユニテックでは留学生で構成されるクラスを受講していました。様々な国出身の彼らと英語を勉強して、英語という言語が「世界語」であること、そしてその「世界語」はコミュニケーションの「手段」にすぎないことを改めて感じました。また、流暢な英語よりも自分の気持ちを的確に伝えようと努めること、相手の話をよく聴くこと、そして質問することがいかに重要であるかということにも気付かされ、ニュージーランドでの2ヶ月は人との出会いから感じ、学び得たことが多くあったと思います。



また、留学生として滞在している訳ですから当然、様々な所で日本社会や日本人についてのコメントを求められました。それは、自国の歴史や文化について古いもの・新しいもの共に知識として持つことが、異文化コミュニケーションにおける基本であると実感した経験です。さらに、日本について伝えることは、相手が日本についてどう見ているかを知る1つのチャンスであり、私は「モノを見る」には自分が持っている視野だけでは全く不十分であることにも気付かされました。実際、同じ中国出身の友人でも、一方は漫画、ドラマ、ポップスなど日本の現代文化に強く興味をもっており、将来は日本語も学びたいと話していましたが、もう一方の友人からは「私はあなたのことはとても好きだけど、日本と中国の間には複雑な問題がある。家族も日本には良い印象を持っていないし、再会は出来ないと思う」と言われたことがあります。私にとって非常にショックな言葉でしたが、同じ国の人でも出身地域が違えば日本に対する印象も異なってくることを、身を以って知りました。それからは広い視野を持ち、相手の立場を考える姿勢を意識するようになったと思います。

私は、「コミュニケーションの意味」、「物事を見る視点の変化と拡大」を発見させてくれた全ての出会いと、留学に際し応援して下さいました方々に感謝しています。学び得たものもこれからも大切に、留学の成果がしっかり発揮されるよう、努めていきます。

【短期語学ホームステイプログラム(オーストラリアコース)】

成長できた4週間

社会福祉学部 社会福祉学科 3年 山本 志織

【2005年3月 オーストラリア・ラトロープ大学へ派遣】

私は海外の福祉にも興味があり英語の勉強をするには良い機会だと思い、今年の2月から約4週間、オーストラリアでのホームステイプログラムに参加させていただきました。それまで英語を話すことに自信を持てなかったのが多少の不安はありましたが、それよりも初めて訪れる地での生活に期待の気持ちでいっぱいでした。

初めての留学ということもありホストマザーは私に分かりやすいようにゆっくりと発音してくれ、また私の言葉を熱心に聞いてくれました。それまではきちんとした文法で話そうと構えていましたが、そうではなくて伝えたいという気持ちが大事だということに気づきました。それからは夕食の時間にはオーストラリアと日本の話で盛り上がり、文化や習慣の違い、また自分自身について考える時間でもありました。

学校では他の国からのクラスメイトに圧倒されてしまい、自分の英語力のなさに落ち込んだこともありましたが、刺激も受け、質問したり積極的に発言できるようになりました。お互いの言葉を教えあったり文化を学んだりしたことで距離が縮まり、彼らとは今でもメールで連絡を取り合っています。

私はこのプログラムに参加してから英語に対して積極的になれたと思います。また自分でいろいろな場所へ出かけたりしたことは自信にもつながりました。それはオーストラリアの気さくな人々、一緒に学んだ友達、学校の先生、そしていつでも優しく接してくれたホストマザーのおかげだと思っています。4週間はあっという間でしたが、忘れられない皆さんの経験をし、成長したと実感できた4週間でした。この経験を今後の英語の学習に活かし、大好きなオーストラリアで再び学びたいと思っています。



最終日にクラスメイトと
(筆者は前列右から2人目)

【学生研修団(ベトナムコース)】

出会いと感動☆Vietnam体験記

社会福祉学部 社会福祉学科 4年 安永 愛子

【2005年3月 ベトナム・ハノイへ派遣】

“ベトナムってどんな国だろう？”-ベトナムといえばアオザイくらいしかイメージの湧かなかった私は、とにかく自分の目で見て、肌で感じたい!!という想いで研修団に参加しました。これは、私の旅日記の一部です。

熊本から仁川経由で約5時間のフライトーベトナム・ハノイに到着。

2日目は、朝からホテル近くをお散歩。…半端じゃない数のバイクが、怖い。無事にホテルに戻って、一安心。午後からはベトナム国家大学ハノイ校へ。盛大な歓迎をうける。Welcome Partyの後、ホストファミリーの紹介があってトゥイちゃんご対面!!ステイ先は、商店街の一画にある靴屋さん。お父さん、お母さん、おばあちゃん、妹…8人の大家族で歓迎してくれました。みんな本当にいい人☆おばあちゃんとお母さんが、まったく日本語が分からないのに身振り手振りてたくさん話しかけてくれたのが嬉しかったなあ。

3日目。ステイ先での朝食は、米粉のクレープと、おばあちゃんお手製のバン・チャイというデザート。とっても美味しい!!!別れ際に、お父さんとお母さんが作ったかわいい♡サンダルをくれた。ハノイの学生と一緒に街を散策して、いよいよお別れの時間。みんなで写真を撮って…ちょっと泣きそうだった。

4日目。朝からお腹が絶不調。ハロン湾クルーズも、私だけキャンセル。みんなを見送って、部屋でゆっくり…と思っていると添乗員さんから電話が。病院に行くことに。う〜ん…ある意味、ハロン湾よりも貴重な体験だったかも(笑)

5日目。少数民族の村やお寺などを見学して、いよいよ帰国です。

この研修で私が感じたことーそれは、ベトナムの人たちの温かさでした。

また、この研修がきっかけでベトナムからの交換留学生のホストファミリーを引き受け、ヒェウちゃんという大切な友達と出会うことができたことに感謝します☆



ホストファミリーと(筆者は右から2人目)

忘れられない学園大

中国・深圳大学 副教授 孫 俊 英

【2004年9月から半年間交換教員として受入】

私は去年の9月に交換教員として熊本学園大学に参りましたが、あっという間に半年が過ぎていきました。しかし、学園大で出会った皆様のおかげでこの半年間忘れられない思い出をたくさん作りました。

来たばかりのときは、日本語が分からなくて学校まで行く道を聞くときが大変だったので、「授業は大丈夫なのかな」と心配していました。最初はやはり言葉がなかなか通じなかったので、学生との交流がうまくいかずちょっと挫折していました。その後は身振り手振りを使ったり、中国人留学生に教えてもらった授業用の片言の日本語を使ったりして、何とか分かってくれるようになったのでほっとしました。しかし、授業がスムーズに進んでいけるようになってきたのは私の努力というより、学生たちが私の言っていることを理解しようと努力してくれたからだと思います。ですから常に「学園大の学生は素晴らしい」と感心しています。

それに先生方向けの中国語の授業も週1回あって4人の先生が参加してくださり、皆で楽しく中国語を勉強しました。中国語の勉強はもちろん、先生方といろいろ話し合い学校間の交流にもなったし国際交流もできたと思います。先生方のおかげで中国語の面白さを感じさせていただきました。

学園大は設備もよく整っているのでとても便利です。よく情報教育センターと図書館を利用しました。そこの方々にいろいろご迷惑もお掛けして、皆様に大変お世話になりました。日本語の分からない私にもご親切に説明してくださったり実際にやってくださったりして本当に皆様のお仕事振りに感心しました。

最後に国際交流センターの方々に感謝の意を申し上げます。学校の授業のことだけでなく生活の面まで行き届いたお世話をしていただき感謝の気持ちで一杯です。留学生たちのための通潤橋への日帰り旅行にもわざわざ私まで誘ってくださいました。それに息子が日本に来たときちょうど日本の成人式があり息子も参加させてもらいました。息子にとっては二度とない貴重な体験だったと思います。そこまでお世話になってしまって本当に申し訳ないと思いつつも、皆様のおかげで半年間無事に過ごしてきました。皆様、ありがとうございます

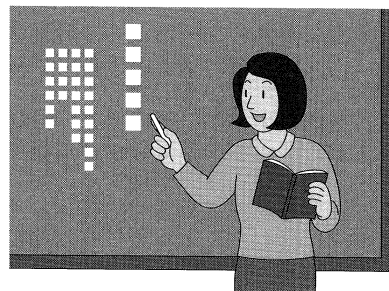


山都町へのフィールドトリップ
(筆者は2列目右端)

ました。

このきれいな熊本学園大学で出会った人々と作った思い出を中国に持って帰って私の人生の宝物として大切にします。

学園大の皆様もぜひ深圳大学にいらっしゃってください。学園大ほど立派なキャンパスではありませんけれども広くて、新しくて、居心地のいいキャンパスだと思います。



忘れ難き熊本 厚き友情

中国・深圳大学 副教授 李 沛 然

【2005年3月から半年間交換教員として受入】

私は深圳大学交換教員として姉妹大学の熊本学園大学へ派遣され、2005年3月から8月の半年間を熊本で過ごしました。その間大学の教職員の方々、学生たち、そして地域の各界の友人たちと厚い友誼を結ぶことができたことは実に忘れ難いことです。

学園大学では私はいつも心軽やかで楽しい心境で過ごしました。大学は生活する上で十分な環境を整えられており、仕事の上でも様々な面でとても順調に進めることができました。

私が最初に知り合ったのは中国語教育に携わられる先生方でした。ここ熊本に適した中国語教育ができればと思います。先生方は授業を参観させてもらうことにしたのです。先生方は授業に対し大変熱心に力いっぱい情熱をそそがれています。先生方は中国語のレベルが高いだけでなく皆さんそれぞれに中国の歴史、文化、社会などあらゆる方面について独特の研究を行っていらっしゃいます。「私の日本への理解は十分であろうか？」と自問自答を禁じえませんでした。

中国語専門の先生方以外でも中国へ深い関心を持たれています。先生方との交流を通じて私は中国の近年の変化や深経済特区内の成長などを紹介してきました。なかには共同研究の構想を持たれた方もありました。

大学はそれぞれの部門において秩序ある責任ある仕事が行なわれており、業務への目的意識は高く、効率が大変よく、教学業務などたいへん高い信頼がおけます。中国語の授業をより活発で、学生達に中国を更に理解してもらおうと私は中国各地方を代表する民謡や伝統的な音楽などの教材を利用しました。図書館へ音楽教材などをお願いするとすぐにふさわしいソフトを提供してもらえました。

授業以外の時間の全てを私は日本語の学習と日本人との交流に充てました。この両者は相互に影響を与え合います。私の目的は大変はっきりしており、できる限り日本社会へ深く入り込み、いわゆるふつうの日本人を理解し、同時に中国の状況を広く紹介したいというものでした。偏見を捨て、理解を深め、友誼を促進する。私は交流を通じて日本人が中国に対して抱いている友好的な感情や平和への希求を自ら感じることができました。

熊本市国際交流会館には来熊外国人のための日本語指導など手助けをする活動グループがあります。退職者や主婦また大学生や会社員など皆さんボランティアによる活動です。自分の時間を提供して草の根からの理解促進に貢献しています。彼らとの日本語学習を通じて私は多くを得て、またよき友人となったのです。

郊外の古墳遺跡で道を尋ねた時、中学校の英語教師である平原先生と出会いました。平原先生は私を自宅へ招き珈琲をご馳走してくださりながら、中国と日本、現在と将来について日本語に英語を交えながら1時間以上にわたってそれは楽しく二人で語り合いました。最後には平原先生の地元の遺跡を案内してくださいました。

四月桜満開の季節、熊本県日中友好協会が花見の宴を開催されました。日本の友人達が持ち寄りで集い、手弁当で作り上げ中国人の友人達を招待するというものです。彼らの中には中国語を話せる人も多くいます。その中の六十余歳のご老人は中国に行ったこともなければ中国語のクラスを受けたこともなく、全て独学にもかかわらず私と中国語で交流ができるのです。ぼろぼろになった中国語の辞典。彼はどこへ行くにもこの辞書を手放しません。中国語を学ぶのは中国文化が



青空の北海道

好きだからそれだけですという彼の言葉にただただ感服するばかりです。

私の最も忘れ難い思い出は、私たち家族3人が城南町の夏祭りに参加しホームステイをした時の体験です。私たちを迎えてくださった甲斐先生はご夫婦ともにかつて教職に携われ退職された地元の名士で、最高のおもてなしで迎えてくださるのですが私たちはいったいどうしたらいいのかが分からず緊張してしまいました。しかし甲斐先生ご夫妻の温かさや教育職という共通点が私たちの距離をあっという間に縮めてくれました。言葉の壁はあったものの楽しく会話は弾みました。夜の花火大会で私たちは一緒に歌い踊り、NHKのインタビューを受けることになりその模様はニュースで放映されました。二日間の時間は大変短いものの培われた友情は別れを大変惜しみました。その後私たちはお二人を我が家へ招き、一緒に餃子を作りふつうの中国人の家庭料理を味わってもらいました。私たちの帰国の日、甲斐さんご夫妻は朝早くからわざわざ熊本へ来られ見送りに来てくださり、私たちは互いに記念の品を交換しました。中国でお二人をお迎えできる日が早く来るよう期待しています。

この数ヶ月で出会った日本の友人のなんと多いことでしょう。その一つ一つをあげることができません。

私はもともと地理が専門です。旅行好きの一時もじっとしてられない性格です。普段も週末を利用して自転車で熊本市内にとどまらず宇土や菊池、熊本港、金峰山などへと出かけました。夏休みにはJRの青春18きっぷを利用して北は北海道稚内から南は九州鹿児島まで日本各地を漫遊しました。苦労や疲れはつきものですが日本各地の美しい風景、多彩な人と風采は私の目を飽きさせないばかりか心を和ませ、新しい友人との出会いに富み、彼らとのよもやま話に花が咲くたびにその楽しさにまた心が躍ります。

ある人は半年間もの海外生活は寂しく時間も長く感じるだろうといいます。私にはあまりにも早く過ぎてしまい、まだあれこれした、しなければならないことがあるのにいつの間にか帰国の日となってしまいました。この半年間を思い返すと大きな大きな収穫がありました。しかしこれははじまりにすぎません。これから熊本学園大学の先生方と交流を続け、両校の交流に私も尽力しなくてはなりません。また中日両国人民の交流と理解を促進し、代々の平和と友好の実現を私自身の永遠の使命として進めていかななくてはならないという所存です。

新生へのエネルギー

商学部 教授 西園寺 明治

【2004年3月から1年間交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

平成16年3月の新学期から平成17年2月まで、交換教員として大韓民国の大田大学校に出張しました。交換教員募集に手を挙げさせたのは、国際交流委員長であったところの大田大学校からの交換教員とのお付き合いから、私の中で膨らんできた隣国への関心でした。韓国滞在が終わってもう10ヶ月がたとうとしている今、韓国理解がどれだけ進んだと自分に言えるか心許ない限りです。所属した日本語・日本文学科の先生方の御配慮や学生たちの明るさ律儀さに大いに助けられ、韓国滞在は私にとって貴重な思い出深い1年となりましたが、印象の中心を一言で言うと韓国の「エネルギー」ということになりそうです。

一つは、日本語や英語を話せる若い人が多いなど、思ったことです。不幸があって葬儀に出席するため病院へ行ったとき私が葬儀の場所を尋ねた若い勤務者は、日本語英語どちらでも会話可能であったし、ある登山口の案内嬢は流暢な日本語を話し案内地図も日本語でコメントを書いてくれました。これは、個々人の努力に加えて、それを支える教育システムにも拠るのだと思います。第7次教育課程により、高校3年生から第2外国語（日本語、中国語、フランス語他）の履修が義務付けられ、大学に入ってからその履修は続きます。

英語教育について付け加えると、第7次教育課程では、初等教育3年生から全員に英語の履修が課されていて、この教育課程は開始から10年経過しています。ということは、初等学校3年以來英語を10年間学習してきた生徒が、来年は大学の1年生になるということを意味します。それを受けて、首都のある大学では、教養課程の科目のうち100科目以上の講義を英語で行う予定だそうです。単に英会話ができるということにとどまらず、「英語」以外の授業の形態にも影響を与える大きな変化が、訪れるだろうと思います。この影響は勿論大学にとどまりません。理想通りにはなかなかいかないでしょうが、韓国が外国語教育にかける意気込みと理念は、私にとって大きな感銘、ショックでした。大田大学校で実施されている複専攻制度とも関連して、専門化に傾斜し細っていくように思える日本の学部教育との違いが痛感されます。

教育に向けられたエネルギーは「大衆文化」でも顕著です。

2004年は、日本の大衆文化の韓国への輸入が大幅に緩和された年です。これまで長期の韓国滞在の経験が無かった私には、それまでとの違いを体験として語ることはできませんが、「良い年に来られましたね」とか「何年か前とはぜんぜん違います」とか、何度か言われました。大田大学校のある学科に「HANABI」という名の日本（語）学習グループがあると聞きました。その名はおそらく北野監督の「HANABI」が、世界の有名映画祭の入賞作品の資格で韓国で公開可能になった年に、結成され名付けられたのだと思います。2004年は、日本では「韓流」の真っ盛り。お互いに両国民の多くが、隣国の文化に初めて接するかのような新鮮な感銘を受けたのだと思います。特に、「韓流」の叙情と骨格の太さ、そしてエネルギーの大きさに、日本人の多くが強い印象をもったのではないのでしょうか。

交換教員の経験を与えていただいた両大学、大田大学校日本語日本文学科の先生方、出張中授業等を補っていただいた学園大の先生方、お世話いただいた交流関係担当者の方々、そして韓国での日常生活や旅先で親切にいただいた名も知らない多くの人々に、心より感謝いたします。



日語・日文学科の先生方と。3月下旬
(筆者は左端)

杵島岳登山



清和文楽館にて



寮の送別会



交換留学生 & 日本語の先生



杵島岳頂上にて



山都町にて

弁論大会



学園祭



通潤橋の上で

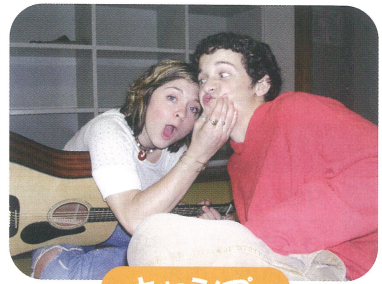


餅つき体験





烏帽岳登山



キャンプ



寮の歓迎会 料理班



国際交流 写真館



体育祭にて



セミナーキャンプ



お城祭り



体育祭

2005年海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月	中国人民大学（尾田美紀）帰国	
2月	ユニテック（田中夏美、生田紘子）、ラトロープ大学（上平真季、岩田和美）出発 大田大学校（白石恵理佳、井元育、小塩美穂、立和田麻奈）、深圳大学（則本智紀、吉川尚徳）、北京外国語大学（東記久子）、チュラロンコン大学（荒木亜衣）帰国 大田大学校（西園寺明治教授）帰国 中国人民大学（岩岡憲太郎）、北京語言大学（山本佳奈）出発	ラトロープ大学（ジョアンナ・ライアン、マーク・パターソン）、大田大学校（李有碩、宋倫燮、呉秀珍）、ユニテック（ウィレム・スチール、ジェシュン ジャオ）帰国 大田大学校（黄中叙先生）、深圳大学（孫俊英先生）帰国
3月	大田大学校（福島大輔、田中紳也、柴田さおり、田中美穂子、寺本真悠子、堀本和弥、宮本涼子）、深圳大学（安武美奈、江崎志穂）出発	大田大学校（安根植先生）、深圳大学（李沛然先生）来熊 大田大学校（李尚勲）、ベトナム国家大学ハノイ校（チン ティフォンタオ）、深圳大学（潘燕萍、付細月）、桂林市（王悦徳、肖干）帰国 大田大学校（兪輝在、白斗鉉、李壽連、朴鎮希、宋明俊、宋銀喜、金相恩）来熊
4月		深圳大学（莫雅娟、蔡昕宜）、ベトナム国家大学ハノイ校（レミン ヒェウ）来熊
5月	モンタナ州立大学（平江美貴、内田朝子）、モンタナ大学（境亜矢子）、キャロル大学（阿倍有圭子、田中千春）、インカーネットワード大学（西岡朋美、金光聡美／市派遣）、ウイスコンシン大学オークレア校（坂口恵梨香、井上晶子、村山麻由美）、カールトン大学（村上真優美）、リバプールジョンモーズ大学（田屋ゆりこ、中川道雄）帰国	
6月	ベトナム国家大学ハノイ校（権藤真由美）帰国	
7月	カールトン大学（高山奈採）出発	モンタナ州立大学（グラント・ターナー、デイビッド・コッタス）、インカーネットワード大学（ショーン・ウォルトン、ジェイコブ・コール）、セント・メアリーズ大学（トレパー・ケネディ）、カールトン大学（ダンカン・ブルーム、クリス・マエダ）、リバプールジョンモーズ大学（ローラ・ラベール）帰国
8月	モンタナ大学（野尻秀之教授）出発 大田大学校（筒井久美子先生）出発 モンタナ州立大学（江口藍、倉岡亜希子）、キャロル大学（高野清華）、インカーネットワード大学（栗津武志）、ウイスコンシン大学オークレア校（李世恩、江口舞）、セントメアリーズ大学（城戸千明、森田茜）、カールトン大学（森川真彦）、リバプールジョンモーズ大学（宮本三祐己、寶生絵美）出発	深圳大学（李沛然先生）帰国 モンタナ州立大学（クリストファー・ペトロニ、ジェシー・ウェリング）、セント・メアリーズ大学（ジョン・ベネット）、リバプールジョンモーズ大学（リー・ドリナン）、ユニテック（ジェフ・ス）帰国
9月	広西師範大学（吉野富士、馬場裕子／両名とも市派遣）出発	深圳大学（蔡元慶先生）来熊 モンタナ州立大学（サラ・ブゼッティ）、キャロル大学（トッド・マケイ、アダム・ソロ）、インカーネットワード大学（アンジェロ・バルド、ジェニファー・カラウェイ）、セント・メアリーズ大学（マイケル・ヘンマン）、カールトン大学（張綺玲、李孟超）、ラトロープ大学（レオン・オールドフィールド）、ユニテック（クリス・エクホード、徐淨、クリストファー・ホワイト）来熊
10月		
11月		
12月	ラトロープ大学（上平真季、岩田和美）、ユニテック（田中夏美、生田紘子）帰国	

短期派遣・研修団	その他	
		1月
リバプールジョンモーズ大学、ユニテックへの短期派遣留学生 (12名) 出発 短期語学ホームステイプログラム [オーストラリアコース (14 名) 2/19~3/19]		2月
短期語学ホームステイプログラム [ニュージーランドコース (11名) 3/5~3/29] 学生研修団 [ベトナムコース (14名) 3/14~3/19] リバプールジョンモーズ大学、ユニテックへの短期派遣留学生 (12名) 帰国	国際交流委員長一行北京四大学訪問 3/1~3/5	3月
	Montana Study Program Director クック恭子氏来学 4/19 Up with People 来学 4/23	4月
	リバプールジョンモーズ大学秦健一郎氏来学 5/23 学長一行中国工商銀行訪問・第2回学術報告会参加 5/29~5/31 国際交流委員長 NAFSA 年次大会出席 5/30~6/3	5月
大田大学校研修団 (18名) 来学		6月
大田大学校研修団 (18名) 帰国	広西桂林旅遊高等専科学校訪問団来学 7/14 経済学部外国事情研修出発 [アメリカコース、ニュージーランドコース] 外国語学部海外研修出発 [アメリカコース、イギリスコース、韓国コース、中国コース] ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学 Ngo Minh Thuy 先生来 学 7/29	7月
大田大学校学生自治会本学訪問交流 8/1~8/3 本学学生自治会大田大学校訪問交流 8/18~8/20	経済学部外国事情研修帰国 [ニュージーランドコース、アメリカコース] 外国語学部海外研修帰国 [韓国コース、中国コース、イギリスコース、アメリカコース]	8月
		9月
	中国工商銀行学術訪問団来学 10/24~27	10月
	北京第二外国語学院調印代表団来学 11/8~11 セント・メアリーズ大学ハイディ・テイラー氏、レベッカ・ フィッツジェラルド氏来学 11/14	11月
	大田大学校姉妹校提携締結20周年記念式典参加代表団来学 12/1~4 国際交流委員長モンタナ大学、ウィスコンシン大学オークレア 校訪問 12/5~12/10	12月

2005年度春学期 出身国(地域)別外国人留学生数

【2005年5月1日現在】

	学部留学生 Undergraduate					研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate				交換 留学生 Exchange	合計 Total
	1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	博士	合計		
中国 China	31	29	21	1	95	4	4	5	3	12	2	113
韓国 Korea			1		1						7	8
アメリカ U.S.A.											6	6
カナダ Canada											4	4
イギリス U.K.											2	2
ベトナム Vietnam							1			1	1	2
ニュージーランド New Zealand											1	1
モロッコ Morocco								1		1		1
タイ Thailand						1						1
合計 Total	31	29	22	14	96	5	4	6	1	14	23	138

2005年度秋学期 出身国(地域)別外国人留学生数

【2005年10月1日現在】

	学部留学生 Undergraduate					研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate				交換 留学生 Exchange	合計 Total
	1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	博士	合計		
中国 China	31	27	21	14	93	5	4	5	3	12	3	113
韓国 Korea			1		1						7	8
アメリカ U.S.A.											4	4
ニュージーランド New Zealand											3	3
ベトナム Vietnam							1			1	1	2
オーストラリア Australia											1	1
カナダ Canada											1	1
マレーシア Malaysia											1	1
フィリピン Philippines											1	1
モロッコ Morocco								1		1		1
タイ Thailand						1						1
合計 Total	31	27	22	14	94	6	5	6	3	14	22	136

2005年留学生参加イベント

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生の会	熊本YWCA	ホームビジット先の紹介 行事への案内とご招待	随 時
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1月10日
餅つき大会	熊本学園大学 付属敬愛幼稚園	園児や保護者と餅つき	1月22日
ユネスコ音楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	能面の体験・仕舞の鑑賞など	1月23日
お茶会	裏千家青年部 国際ソロプチミスト熊本	茶道体験と昼食会	2月13日
企業人と留学生との交流会	YMCAフィランソロピー協会 熊本留学生交流推進会議	熊本の企業人との交流会	2月26日
ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	八代市へユネスコ会員と小旅行 手漉き和紙作り体験・八代城跡見学等	3月12日
ひなまつり	熊本YWCA	着物の着付け体験・日本舞踊の体験など	3月13日
日本料理の会	日豪協会他	日本料理を作りながら熊本の人達と交流	3月23日
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学 国際交流センター事務局	防災センターで消防事情講話と地震・台 風・火災体験	4月5日 10月27日
新入生歓迎ピクニック	熊本学園大学 国際交流センター事務局	阿蘇(烏帽子岳登山) バスハイク	4月16日
第18回熊本分区留学生交流会	熊本北ローターアクトクラブ	留学生と熊本在住青年が昔遊びを通じて国 際交流	5月15日
第一弾 田植え体験!	NPOブリッジ・そよ風パーク	田植え体験を通じて地域の人達と交流	6月12日
第15回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学 国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月18日
ボーリング大会&交流会	熊本商工会議所 国際交流委員会	ボーリング大会を通じて、在熊留学生と商 工会議所の人達との交流	6月26日
飽田東小学校交流会	熊本市飽田東小学校	留学生と小学生の国際理解交流	7月19日
城南町夏まつりホームステイ	城南町フレンドシップクラブ	城南町夏まつりの参加と1泊2日のホー ムステイ体験	7月23日～24日
乙女河原BBQ&花火	熊本商工会議所 国際交流委員会	乙女河原で在熊留学生と商工会議所の人達 との交流	8月7日
留学生インターンシップ	熊本県・(社)熊本県貿易協会	夏休み中の約2週間、地元の企業でイン ターンシップ経験	8月～9月
くまもとお城まつり	日本現代和装研究会	着物の着付けと散策	10月22日～23日
稲刈り体験&高千穂峡の旅	NPOブリッジ・そよ風パーク	稲刈り体験・高千穂峡へ小旅行&地域の人 との交流	10月23日
泥かぶら公演	新制作座文化センター	舞台公演へのご招待	10月26日
琴曲の祭典	熊本琴演奏者協会	琴曲の祭典へのご招待	10月30日
体育祭	熊本学園大学 体育常任委員会	体育祭へ参加	11月4日
託麻祭	熊本学園大学 第一部学生自治会	外国人留学生の模擬店出店	11月4日～6日
通潤橋フィールドトリップ	熊本学園大学 国際交流センター事務局	通潤橋・清和文楽鑑賞	11月7日
詫麻原小学校交流会	詫麻原小学校	留学生と詫麻原小学校6年生130人と交流	11月17日
阿蘇山フィールドトリップ	熊本学園大学 国際交流センター事務局	阿蘇(杵島岳)登山	11月19日
日本体験隊	NPOブリッジ・そよ風パーク	山都町でブルーベリージャム作りと地域 の人との交流	11月23日
留学生との夕べ	熊本学園大学 国際交流委員会	留学生と本学教職員との交流	11月25日
留学生スポーツ交流会	熊本学園大学学生議会	本学日本人学生と留学生とのスポーツ交流 と懇親会	12月10日
お正月体験ホームステイ	国際交流協会「西端塾」	日本の家庭に5泊6日ホームステイしなが ら、日本のお正月・文化を体験	12月29日～ 1月3日

交換教員紹介



安根植 先生

(韓国・大田大学校)

2005年3月から1年間、交換教員として韓国語を担当。



蔡元慶 先生

(中国・深圳大学)

2005年9月から半年間、交換教員として中国語を担当。



野尻 秀之 先生

(商学部教授)

2005年8月から1年間、交換教員として米国・モンタナ大学へ



筒井 久美子 先生

(外国語学部講師)

2005年8月から半年間、交換教員として韓国・大田大学校へ

2005年研修団往来

〈受入〉

研修団名	研修期間	団員数
大田大学校	6月27日(月)～7月14日(木)	18名

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	研修先	団員数
学生研修団 ベトナムコース	3月14日(月)～3月19日(土)	6日間	ベトナム・ハノイ	14名
経済学部外国事情研修 アメリカコース	7月17日(日)～8月12日(金)	27日間	モンタナ大学	13名
経済学部外国事情研修 ニュージーランドコース	7月17日(日)～8月11日(木)	26日間	EIT	34名
外国語学部英米海外研修 アメリカコース	7月28日(木)～8月27日(土)	31日間	ベセル大学	37名
外国語学部英米海外研修 イギリスコース	7月28日(木)～8月27日(土)	31日間	デモントフォート大学	16名
外国語学部韓国海外研修	7月28日(木)～8月25日(木)	29日間	梨花女子大学校	21名
外国語学部中国海外研修	7月29日(金)～8月26日(金)	29日間	北京第二外国語学院	19名



大田大学校学生研修団



学生研修団 (ベトナムコース)

International Exchange Program Committee Members

国際交流委員会メンバー

(敬称略)

2004年1月～2005年12月

国際交流委員長	佐藤 勇治
商学部	杉田 憲道、木下 隆雄 (～2005年1月)、太田丈太郎 (2005年2月～)
経済学部	小川 弘和、中敷領孝能
外国語学部	西 紀昭、向井久美子 (～2005年3月)、林 日出男 (2005年4月～)
社会福祉学部	落合 俊行 (～2005年3月)、小泉 尚樹 (～2005年3月)、 篠崎 正美 (2005年4月～)、出川聖尚子 (2005年4月～)
国際交流センター事務局	田中 和穂 (～2005年3月)、岡村 健一、喜佐田知子 (2005年4月～)

2006年1月～2007年12月

国際交流委員長	中野 裕治
商学部	杉田 憲道、土井 文博
経済学部	司馬 公周、朴 哲 洙
外国語学部	野田 耕司、林 日出男
社会福祉学部	高林 秀明、豊田 直二
国際交流センター事務局	岡村 健一、喜佐田知子

Office Staff Members

国際交流センター事務局スタッフ

室長	岡村 健一	}	国際交流計画、実施
係長	喜佐田知子		交換教員派遣、受入
係長	切通しのぶ		外国人留学生受入
	矢澤 恵子		外国大学等へ留学、研修関係
	大澤菜穂子		外国からの訪問者対応、通訳
	牧 亜希子		国際交流関係文書の翻訳、保管
	寺田 一利		国際交流関係印刷物
		国際交流会館 (事務局)	

Office Hours

窓口時間

平日	Monday-Friday	9:00～12:30	13:30～17:00
土曜日	Saturday	9:00～12:30	

Contact Address

お問い合わせ先

〒862-8680	Office of International Programs
熊本市大江2丁目5番1号	Kumamoto Gakuen University
熊本学園大学 国際交流センター事務局	2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL 096-366-3230 (直通)	TEL +81-96-366-3230
FAX 096-372-4112 (専用)	FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

URL : <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/>

2006年3月発行

